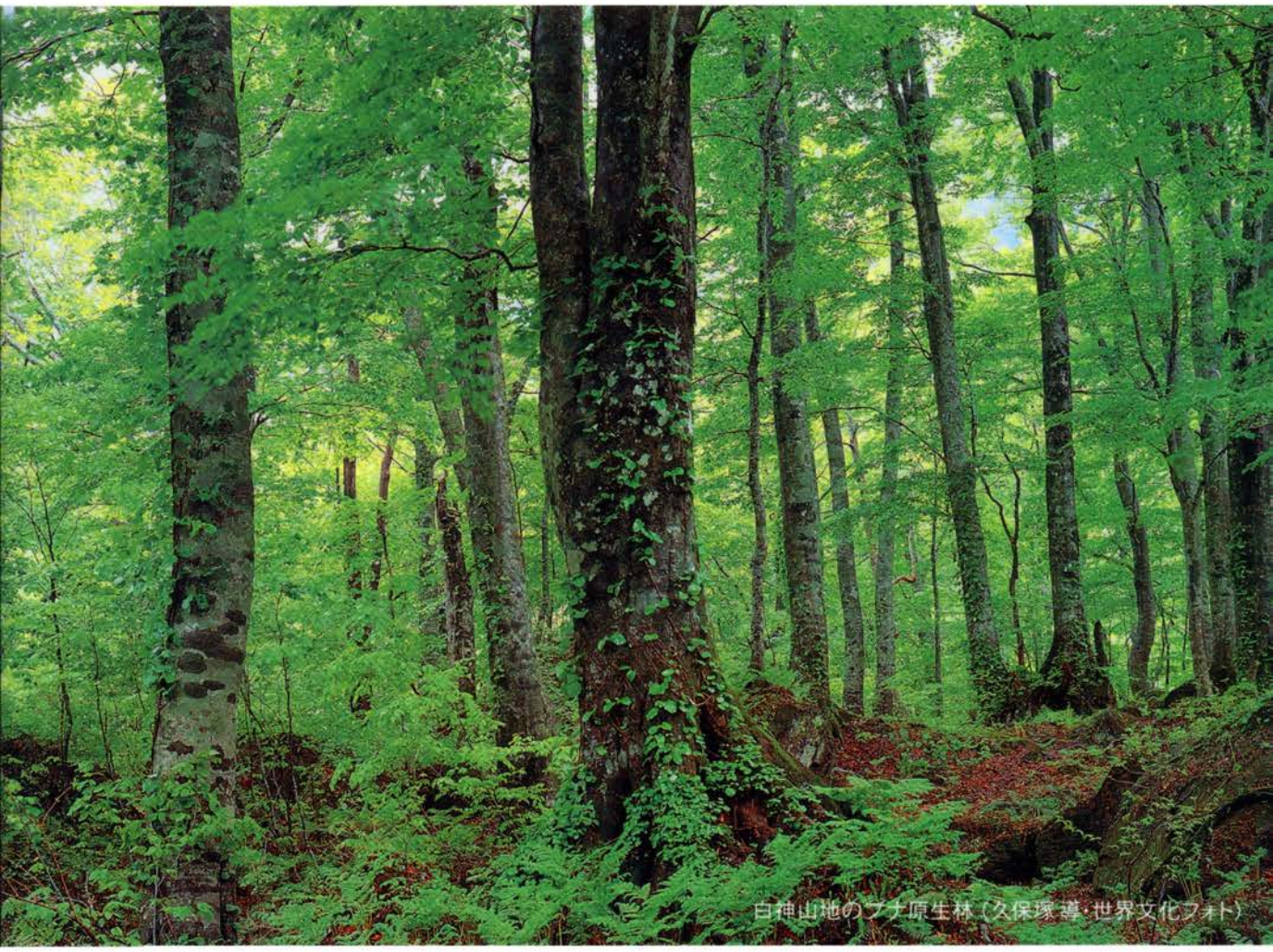
# JSCLA



白神山地のブナ原生林〔久保塚導・世界文化フォト〕

JAPAN SOCIETY FOR CLINICAL LABORATORY AUTOMATION

30th

臨床検査の自動化とともに

日本臨床検査自動化振興会

Japanese Association for Clinical Laboratory Automation

## CONTENTS


■ JSCLA創成期の経緯…… 2

■ JSCLA30年をふりかえって…… 3

■ 日本臨床検査自動化学会展示会年表(1) ……4

■ 機器・試薬セミナー参加状況…… 8

■ 日本臨床検査自動化学会春季セミナーのあゆみ…… 10

■ 出展会社と来場者の内訳 ……12

■ 日本臨床検査自動化学会展示会年表(2) ……14

■ ノーベル賞受賞者一覧(医学生理学賞) ……22

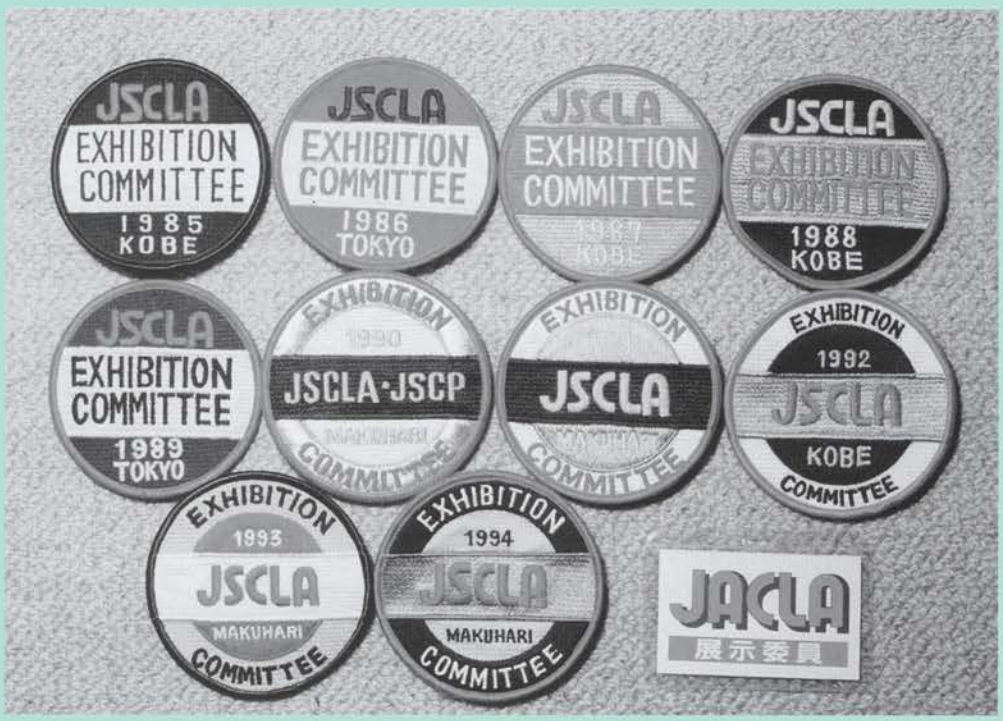
■ ノーベル賞受賞者一覧(化学賞) ……24

■ 医療費の推移…… 26

■ 医薬品及び臨床検査薬生産状況…… 27

■ 業務会・業務委員一覧…… 28

# 臨床検査の自動化とともに



# JSCLA創成期の経緯

日本臨床検査自動化学会
会長　茂手木皓喜

1998年9月16～18日、第30回という節目に当たる日本臨床検査自動化学会大会が、幕張メッセ・国際会議場ならびに国際展示場で開催される運びとなったことは、関係者一同大きな喜びとするところです。本学会が自動化研究会として正式に発足したのは1969年で、学会と改称したの1981年で、通算して今年は30年目になるわけです。さて、ここで本学会の創成の経緯について簡単に紹介したいと思います。

1953年にSkeggsによりオートアナライザーが開発され、わが国にも1957年に導入されました。このオートアナライザーが、わが臨床検査領域に与えた影響は大きく、正に革命的と評価され、世界各国の検査の自動化を刺激しました。わが国においては当時ようやく臨床検査の重要性がみとめられ、相つぐ中央検査室の設立、それに伴う検査件数の増大は目をみはるものがあり、その対応に各施設とも苦慮しておりましたが、オートアナライザーの応用によりこれらの悩みは一挙に解決しました。1時間当たりの検査数が40～60件で、当時にしては画期的なものでした。オートアナライザーの有用性、効率性は広くみとめられ、2～3年で10数台に達しました。そして、その方法、試薬、メンテナンスなどを含めて、いかに有効に使用するかを検討、討議するため1961年にユーザーの有志がオートアナライザー研究会を組織し、年3～4回の会合が持たれました。

本研究会は有志の会合から進展して、徳島、新潟などで行われた日本臨床病理学会でのナイトセミナーにも参加するようになりました。オートアナライザーは周知の如く連続フロー方式の機器で、当時のわが国においては唯一の自動分析機でしたが、1963年頃よりディスクリート方式の機器が開発輸入され、実用の段階に達するようになりました。そして、オートアナライザーと同様、これらディスクリート方式の機器も検討、討議の対象として、オートアナライザー研究会を発展的に解消して、臨床化学自動分析研究会を1965年に発足させました。そして1968～1969年、わが国においても日立、東芝、オリンパス、日本電子などがディスクリート方式の機器の開発を始め、自動化の関心は深まり、生化学検査領域以外の自動化機器も登場してきました。オートアナライザーによる免疫学的検査、血球計数（検査）、それに日科機や東亜医用電子による血球自動計数機などです。このように生化学以外の自動化機器の臨床検査への導入時期に合わせて臨床化学自動分析研究会を解消して、1969年、臨床検査自動化研究会を発足させました。

そして第1回の全国大会を東京の番町共済会館で開催しました。機器の展示業者は5社で、ロビーや楽屋に展示されたのを覚えております。参加人員は200人位だったと思います。

この第1回を境に、また時代の要望とマッチして自動化機器の開発、研究、普及はめざましく、今日の隆盛へと驀進してきたわけです。

さて、研究会の運営ですが、会員数も少なく収入もわずかで、展示業者のご協力でまかなっておりましたが、その展示料集めが一苦労で、担当委員が各ブースをまわってその場で協力金を得ておりました。ある年などは電気料を考慮しなかったので、後になって請求され赤字になったこともありました。

その後本研究会は、その性格から言って産学共同での運営が望ましいとの機運が高まり、第5回目から展示業務委員を選任し、学術大会委員と協同で運営にあたることとなり、展示業務委員会が発足しました。

第1回目の代表委員・今井省吾氏（東芝メディカル・当時）が作成された展示業務会則によって、以後の展示業務はスムーズに行われるようになりました。1992年、業務の進展に従って業務会が自動化振興会に改組されたことは、周知のところです。

臨床検査自動化研究会は、その後数年間に、臨床診断医学領域の急速な進歩に伴って、シンポジウム、パネル討論、セミナー、一般発表など質、量ともに大きな充実を見るようになり、1981年、会員の強い要望もあって日本臨床検査自動化学会（Japan Society for Clinical Laboratory）と改組して今日に至っております。

以上、簡単ですが学会創成期の経緯を述べました。

# JSCLA 30年をふりかえって

日本臨床検査自動化学会(JSCLA)ならびに併催の展示会は、今年で第30回を迎えることになりました。特に展示会につきましては、この30年間に学会と共に目覚ましい発展をとげて参りましたが、これもひとえに当初から展示会を指導された諸先生方および出展頂いた会員各社の絶大なご協力の賜物と、厚く御礼申し上げる次第であります。

近年の目覚ましい医療の進歩は、臨床診断医学領域における検査機器、試薬のすばらしい発展に負うところが極めて大きいと言えます。この検査機器、試薬の普及を目的とした展示会は、1969(昭和44)年に発足した日本臨床検査自動化研究会(1981年日本臨床検査自動化学会と改称)が目標とする産学協同の結実を目指して、展示会スタートの当初から大きな期待を担って運営されて参りました。

当初、研究会の先生方が運営された展示会は、1973(昭和48)年の第5回大会開催時に展示業務委員会(以下業務会)が選任されたのを機会に、業務会がその運営を担当することになりました。業務会は臨床検査用機器、試薬を製造、輸入、販売する企業からなっており、第5回大会の展示参加会社は、51社でした。

JSCLA創立20周年を迎えた1988(昭和63)年に、国際交流を拡大強化する一環としてJSCLAでは米国臨床化学会(AACC)と友好関係を結び、1991(平成3)年の第43回AACC(ワシントン)に業務会として初めて展示会に参加し1995(平成7)年にはAACCもJSCLA(幕張)に出展するようになりました。また1996(平成8)年からは、欧州で最大規模の医療展示会であるMEDICAとも展示小間を交換することにより、相互に展示するようになりました。このように海外との交流が密接になりましたので英文展示案内などの英文資料作成も強化するようになりました。

このように業務会の事業が拡大されて参りましたので、1992(平成4)年2月、業務会を発展的に改組して日本臨床検査自動化振興会(Japan Association for Clinical Laboratory Automation・JACLA)をスタートさせました。JACLAは、従来の業務会の展示業務を引き継ぐとともに臨床検査に関わる諸業務の企画、推進を目指しており、1997(平成9)年には、地球規模の医療情報システムのシステム化の時代に備えて、JSCLA、JACLAのホームページを開設いたしました。

本年、第30回という大きな節目を迎えるに当たって30年間のJSCLA、JACLAの皆様のご指導、ご協力に深く感謝し、併せて皆様の思い出の糸口になるようにと思い、この小冊子を作成した次第であります。

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（1-1）

| 大会年度 | 大会長 | 展示会場 | 出展会社数 | 入場者数 | 学会一般演題数 | 一般演題からの話題の機器 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 生化学 | 血液 | 免疫 | 細菌 | |
| | | | (社) | (人) | | | | | | |
| 第1回<br>1969(昭44) | 樫田　良精 | 番町共済会館 | 5 | | 16 | ●バイユニカム AC-600<br>●Auto Chemist<br>●日立 M-400<br>●SMA 12/60 | | | | ●オートアナライザー研究会、臨床化学自動分析研究会が発展的解消して本研究会が発足。 |
| 第2回<br>1970(昭45) | 樫田　良精 | 日消ホール | 11 | | 33 | ●オリンパス ACA<br>●Clinalyzer System<br>●オートラブ<br>●Hycel Mark X | ●血小板計数器 | | | |
| 第3回<br>1971(昭46) | 樫田　良精 | 全共連ビル | 22 | | 29 | ●Vickers MC300<br>●Zymat340<br>●ロボットケミスト | ●東亜自動血球計算器 | | | |
| 第4回<br>1972(昭47) | 奥田　清 | 大阪OMMビル | 32 | | 52 | ●LAC-060-00<br>●ENZYMAT | ●Coulter Thrombocounter | | | ●展示会で赤字が出て、世話会社で負担した。<br>●学会が組織化される。 |
| 第5回<br>1973(昭48) | 石井　暢 | 都立産業会館（大手町） | 51 | 1,800 | 57 | ●SMAC<br>●GEMSAEC FAST ANALYZER<br>●Centrifichem System<br>●Roto Chem II | ●Hemalog<br>●Coulter Counter Model S | | | ●展示業務会が発足。<br>●国税庁で印紙免除の許可を得る。 |
| 第6回<br>1974(昭49) | 茂手木皓喜 | 都立産業会館（大手町） | 55 | 2,000 | 53 | ●２波長測光法（日立701）<br>●ABA-100<br>●Du pont aca | | | | ●酵素を利用した臨床検査薬の開発が盛んになる。<br>●アルバイト女性ユニホーム着用。 |
| 第7回<br>1975(昭50) | 熊原　雄一 | 大阪国際見本市会館 | 54 | 2,200 | 76 | ●Oil-3000<br>●AKES<br>●Greiner Selective<br>●Analyzer GSA-II | | | | |
| 第8回<br>1976(昭51) | 春日　誠次 | 都立産業会館（大手町） | 49 | 2,300 | 80 | ●HMA-1600<br>●Flieger 240R<br>●HI-STAT700<br>●JCAシリーズ | ●東亜CC-710<br>●コーニング白血球自動分類<br>●HEMATRAK | | | ●展示目録を作成し参加者への便宜を図る。 |
| 第9回<br>1977(昭52) | 斉藤　正行 | 都立産業会館（大手町） | 65 | 2,400 | 72 | ●TBA360 ●ACA601 ●JCA-SI6<br>●日立716<br>●Hycel Super 17 ●RaBA-Super<br>●クリニラブ（尿）●日立678（尿） | ●Hemalog D<br>●COAGULATION ANALYZER600<br>●CLOT DIGITIMTE 20<br>●FIBROMAT ●COAG-A-MATE | | | ●臨床化学会と合同の展示会を行う。 |
| 第10回<br>1978(昭53) | 樫田　良精<br>茂手木皓喜 | 都立産業会館（大手町） | 62 | 2,400 | 123 | ●Lactate Analyzer ●JCA-H2C4R<br>●Gilford3500 System ●Gemeni<br>●IRMCA-III ●Coulter Chemistry<br>●NIKONエンザイムアナライザー | ●Cell analyzer ●Microx<br>●Colysagraph ●Coagulometer<br>●Biomatic2000<br>●Micro-Coagulometer | ●Laser Nephelometer | ●Bactometer | |
| 第11回<br>1979(昭54) | 林　長蔵 | 大阪国際見本市会館<br>大阪商工会議所ビル | 81 | 2,800 | 175 | ●CL-720,CL-700 ●日立726,日立706<br>●Abbott VP ●KDAモニター ●TBA880<br>●Microlyzer ●オリンパス6000R<br>●ユニフレット（尿）●クリニテック（尿） | ●ELT-8 ●Coulter S-plus<br>●HEAMA-COUNTER<br>●ULTRA-FLO-100 ●Diff-3<br>●Coag-stat ●Lancer-Coagulyzer | ●Laser Nephelomete<br>●ZD801A | | |
| 第12回<br>1980(昭55) | 大森　昭三 | 科学技術館 | 88 | 2,900 | 133 | ●COBAS-BIO<br>●CL-12<br>●LKB-2086型MK-II | | | ●自動細菌検査装置 MS-2システム<br>●Autobac MTS | ●都立産業会館（大手町）が閉館になり科学技術館に移る。 |
| 第13回<br>1981(昭56) | 清瀬　閤 | 科学技術館 | 82 | 3,300 | 147 | ●テクトロンXA ●グライナーG-300<br>●JCA-VS300 ●ABA200 ●TBA880<br>●日立705 ●Hycel M<br>●パラレルアナライザー ●ビタトロンXYP | ●ABSP(Automatic Blood Snear Proccssor)<br>●CC-800, CC-720<br>●Baker 810 | ●Behring Laser Nephelometer<br>●ベックマン イムノ ケミストリーシステム<br>●Hyland DISC120 System | ●Pregram GLC<br>●Auto-Microbic System | ●日本臨床検査自動化学会と改称。<br>●業務会の東西一本化。<br>●コマーシャルセミナーを設け、注目される機器の話題提供を始める。 |
| 第14回<br>1982(昭57) | 馬場　茂明 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 93 | 3,300 | 136 | ●AUTOA$_{1C}$TM ●HA-8110(HbA$_{1C}$)<br>●CL-30 ●オリンパスAU500<br>●Dry Chemistry（フジ、エクタケム、セラライザー）<br>●KID301改良型ZD-40 | ●Coagmaster ●PDA-410<br>●CELL DYN 800 ●Coulter S Plus II<br>●ELT-800<br>●THMS(H-6000) ●Hematrak | ●LA-System<br>●LPIA-System<br>●TDX-System | | |
| 第15回<br>1983(昭58) | 高原喜八郎 | 科学技術館 | 94 | 3,500 | 170 | ●日立736 ●JCA-VX1000 ●オリンパスACA8000<br>●SSR（オイルテクノロジー）<br>●GEMSTAR ●アンコール<br>●Urine Glucose Auto & STATUG1121（尿） | ●Coatron<br>●CA100 | ●Syva System AC-5000 | ●Vitek AMS-120GPIシステム<br>●Dynateck Microfluor System | ●コマーシャルセミナーをナイトセミナーと改称。<br>●台風が来襲し展示終了を1時間くり上げる。 |

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（1-2）

| 大会年度 | 大会長 | 展示会場 | 出展会社数 | 入場者数 | 学会一般演題数 | 一般演題からの話題の機器 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 生化学 | 血液 | 免疫 | 細菌 | |
| | | | (社) | (人) | | | | | | |
| 第16回<br>1984(昭59) | 丹羽　正治 | 科学技術館 | 95 | 3,600 | 188 | ●TBA-80S 480 ●日立723<br>●JCA VS500 ●ASTRA-8<br>●CL-20<br>●Gilford Im-pact 400 | ●E-5000<br>●Flow Cytometry<br>●Biomatic B-10<br>●STRATUS | ●レーザーコアグロメータ<br>●LC101 | | |
| 第17回<br>1985(昭60) | 山崎晴一朗 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 88 | 3,500 | 186 | ●COBAS-FARA<br>●AU-5000<br>●Dry-chemistry（フジドライケム、エクタケム、レフロトロンシステム） | ●CC-780 ●日立806<br>●オムロンHEG-AS<br>●Coag-Stat Auto II<br>●Aggrecorder II | ●ES22<br>●EL-1000<br>●MARCENTIA MR36 | ●COBAS BACT | ●今井正吾氏（東芝メディカル）顕彰される。 |
| 第18回<br>1986(昭61) | 山中　學 | 科学技術館 | 95 | 3,600 | 192 | ●CL-7000 ●日立7050<br>●VISION System ●COBAS MIRA<br>●TBA-60S ●JCA-RX30<br>●スーパーオーションアナライザー（尿） | ●コアグAメイトX2型<br>●デュアルチャンネル型<br>●CA-4000 ●E-4000<br>●Coulter S-plus Ⅳ ●THMS/H-I | ●LA-2000 ●LPIA300<br>●PAMIA10 ●BNA<br>●PK300 | ●自動細菌同定システムM<br>●ATB32GN | ●ナイトセミナーをイブニングセッションとして学会プログラムに入れる。<br>●樫田良精先生ご逝去。<br>●学会場（教育会館）右翼乱入。 |
| 第19回<br>1987(昭62) | 水田　亘 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 94 | 3,800 | 221 | ●Paramax ●Assist<br>●Dimension 380<br>●YELLOWIRIS（尿）<br>●Dry Chemistry（京都第一） | ●日立8200 ●LC-114<br>●Coulter S-plus STKR<br>●M-2000 ●Thronbostat 4000<br>●FASTEC 901 | ●Array Protein System<br>●HC-100 | ●MICRO SCANシステム | ●イブニングセッションを機器試薬セミナーと改称する。 |
| 第20回<br>1988(昭63) | 茂手木皓喜 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 100 | 4,000 | 213 | ●Easy Analyzer 6160<br>●Monarck<br>●Super Z 818 | ●コアグマスターII<br>●Automated Coagulation Laboratory(ACL)<br>●NE-8000 | ●Quick Turbo ●OCセンサー<br>●ケミルミ　●IB-500<br>●ES600 ●PK310<br>●LX-3000 | ●BACTEC・NR-660<br>●Colony Analyzer Macrosystem | ●第40回AACC(New　Orleans)調査団を派遣。 |
| 第21回<br>1989(平1) | 佐々木禎一 | 科学技術館 | 124 | 4,800 | 235 | ●SMAC III<br>●JCA-RS1200 | ●NE-7000<br>●COULTER VCS | ●IMX ●EL-1200<br>●POSEIDON II<br>●AIA-1200 ●MK-200<br>●エルジア・オート ●VISTA | ●センシタイターシステム<br>●abac6600 | ●第41回AACC(Atlanta)展示会視察団編成（以降毎年）参加者30名。 |
| 第22回<br>1990(平2) | 工藤　肇 | 幕張メッセ国際展示場 | 144 | 5,900 | 257 | ●SYNCHRON<br>●CL-7300<br>●TBA 80M<br>●日立7250 | ●CA-5000 ●MCA 110<br>●HEMA TRACER 801<br>●QBC II<br>●COULTER STKS | ●CTE-5000<br>●ROBOSTAT II<br>●RNDAX100 | | ●第42回AACC(San Francisco)参加者33名。<br>●幕張メッセ会場が完成。以降、神戸と幕張で開催。<br>●展示会は第37回日本臨床病理学会総会学術展示会と共催。 |
| 第23回<br>1991(平3) | 金井　正光 | 幕張メッセ国際展示場 | 131 | 7,000 | 261 | ●AU 5200<br>●日立7070 | ●CELL-DYN 3000<br>●CG 01 | ●QUARTUS ●AIA600 ●PAMIA20<br>●LPIA200 ●アマライトシステム<br>●ACS180 ●ルミコアナライザーSA300<br>●ルミノマスター ●ES300 | ●Auto SCAN-W/A<br>●VIDAS | ●第43回AACC(Washington)JSCLAとして展示開始。参加者33名。 |
| 第24回<br>1992(平4) | 高橋　浩 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 132 | 7,300 | 265 | ●グルテストE<br>●EA 05<br>●SA 4230 ●TBA-80FR<br>●自己血糖測定器 | ●MICRO DIFF18<br>●COBAS ARGOS5 DIFF | ●ルミクイック JIA-FS150<br>●LX-2500<br>●PAMIA300<br>●ルミパルス1200 | ●BACTEC 9240 | ●第44回AACC(Chicago)参加者32名。<br>●神戸国際展示場増設される。 |
| 第25回<br>1993(平5) | 服部　理男 | 幕張メッセ国際展示場 | 128 | 8,100 | 304 | ●日立7170　●US-Alpha（尿）<br>●検体搬送システム<br>●前処理システム<br>●検体検査受付システム | ●コールターONYXシリーズ<br>●KoaguLab X<br>●コアグレックス700 | ●ルミスポットAL-1000<br>●ルミライザー<br>●ACCESS Immunoassay system | ●VITAL | ●第45回AACC(New York)参加者32名。<br>●第15回IFCC（豪・シドニー） |
| 第26回<br>1994(平6) | 水岡　慶二 | 幕張メッセ国際展示場 | 121 | 7,900 | 359 | ●Easy-plus ●GAA 2000 ●HA 8131<br>●EXPRESS plus<br>●コバス　インテグラ<br>●オープスアナライザー | ●GEMプレミア<br>●AGR900<br>●SE900<br>●LC-121 | ●COBAS MIRA PLUS<br>●AxSYM ●ECL PICOLUMI<br>●エバライザ ●IMMUNO1<br>●Array360 ●パラゴン ●オリダス120 | | ●第46回AACC(New Orleans)参加者18名。<br>●第26回MEDICA（Düsseldorf） |
| 第27回<br>1995(平7) | 大場　康寛 | 神戸ポートアイランド国際展示場 | 121 | 7,800 | 337 | ●PVA-mini<br>●HLA 725CA<br>●ドライケムオート5 | ●SF3000 ●K-4500<br>●FLC-240A<br>●MDA180<br>●STA | ●wini VIDAS ●オートデルフィア<br>●CTE8000 ●エバネット EV20<br>●AES310 ●LUMI WARD<br>●イムライズ | ●Bact/Alert<br>●コバスアンプリコア<br>●IA20MC | ●第47回AACC(Anahein)参加者17名。<br>●第27回MEDICA（Düsseldorf） |
| 第28回<br>1996(平8) | 亀井　幸子 | 幕張メッセ国際展示場 | 124 | 7,700 | 295 | ●Opera<br>●Bio Majesty<br>●日立6700（尿）<br>●502X（尿） | ●R-2000<br>●セディシステム<br>●CA-6000<br>●ACL Futura | ●MAOS2 ●JIA-HB200<br>●ルミパルスf ●エクルーシス2010<br>●Ap-960 ●SRASS II<br>●LX2000 | | ●第48回AACC(Chicago)参加者20名。<br>●第16回IFCC（英・ロンドン）<br>●第28回MEDICA（Düsseldorf） |
| 第29回<br>1997(平9) | 中井　利昭 | パシフィコ横浜展示ホール | 121 | 8,100 | 309 | ●TBA200FR<br>●GA1160<br>●HLC727AG | ●ACL6000<br>●ELECTRA 1600C<br>●コアグAメイトMTX | ●ID-1000<br>●ビトロスECi<br>●アレグロライト | | ●第49回AACC(Atlanta)参加者18名。<br>●第29回MEDICA（Düsseldorf） |
| 第30回<br>1998(平10) | 茂手木皓喜 | 幕張メッセ国際展示場 | 114 | | 243 | | | | | ●第50回AACC(Chicago)参加者30名。<br>●第30回MEDICA（Düsseldorf） |

# ■機器・試薬セミナー参加状況

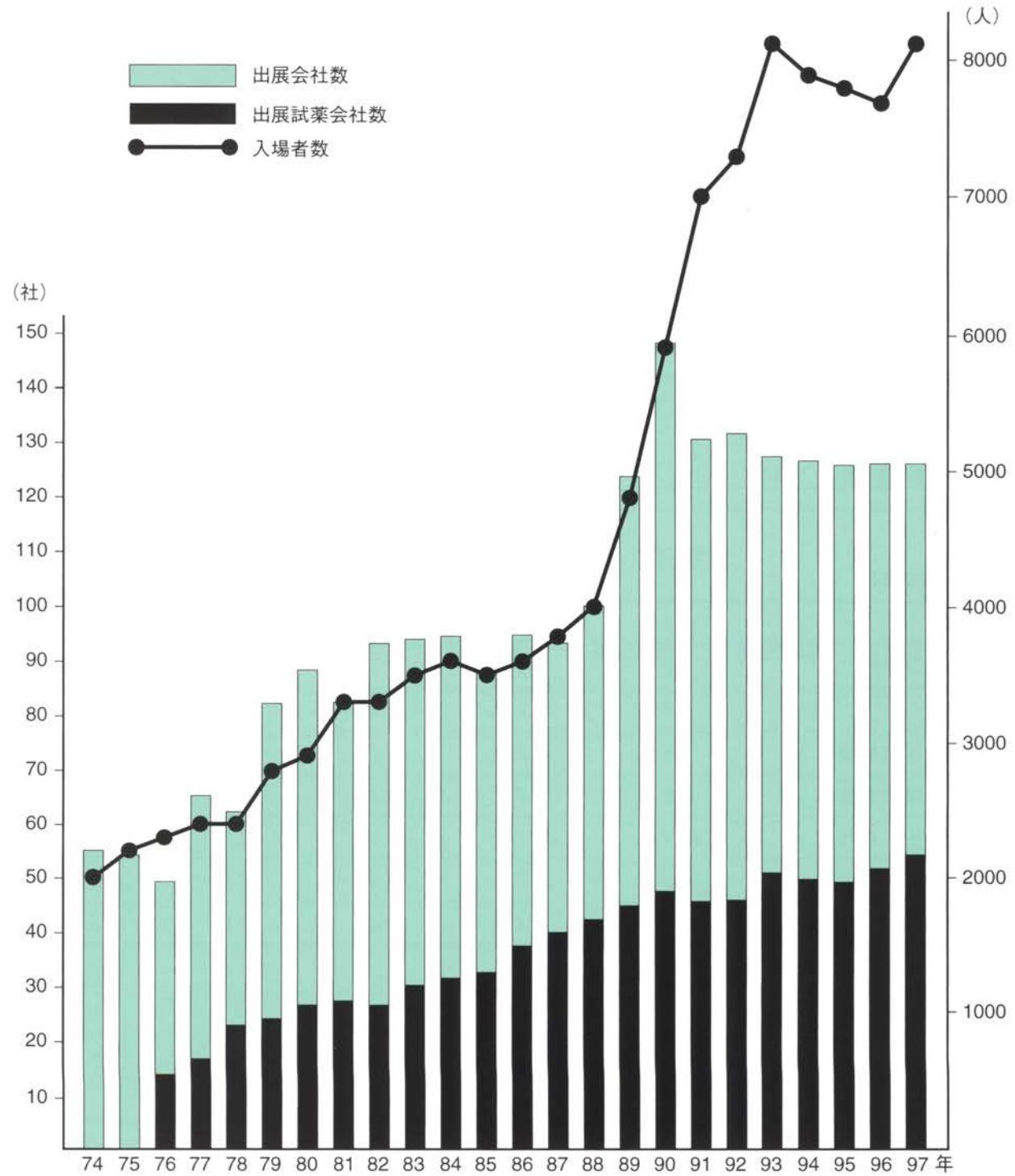
| | セミナー | テーマ・参加状況 |
|---|---|---|
| 第13回 | コマーシャルセミナー | 自動化学分析装置……6社<br>尿自動検査システム……1社<br>全自動電気泳動装置……1社<br>自動分析装置用試薬……3社<br>HbA1c……1社<br>多項目自動血球計数装置……1社<br>細菌の自動化装置……2社<br>免疫血清測定装置……4社 |
| 第15回 | ナイトセミナー | 白血球自動分類装置の臨床的評価……5社<br>多項目多検体処理自動化学分析装置におけるリアルタイムの<br>モニタリングと精度管理……3社<br>HPLCの医学・生化学への応用……1社<br>医用分野におけるイオンクロマトグラフィーの応用……1社<br>パーソナルコンピューターを利用したリアルタイム精度管理……2社<br>New Frontier Technology……3社 |
| 第16回 | ナイトセミナー | 緊急検査とシステム化……4社<br>ドライケミストリー……3社<br>マイコン利用の精度管理……2社<br>血中薬物分析……2社<br>民間検査センターと自動化……4社<br>血液凝固検査の自動化……2社 |
| 第17回 | ナイトセミナー | イオン電極の現状と問題点……6社<br>イムノアッセイの自動化……5社<br>腫瘍マーカー……3社<br>スーパーマルチ自動分析装置……4社<br>マイコン使用による精度管理……3社<br>RIAの精度管理……3社 |
| 第18回 | イブニングセション | 臨床検査における血球粒度分布の意義……3社<br>臨床検査と新素材……3社<br>HbA1cの自動分析……3社<br>イムノアッセイの自動化……7社<br>ドライケミストリー……5社<br>新しい生化学自動分析機……4社 |
| 第19回 | 機器・試薬セミナー | 免疫血清反応自動装置……9社<br>ドライケミストリー……4社<br>血球のフローサイトメトリー……4社<br>尿の自動分析機……3社<br>血清蛋白全自動電気泳動装置……3社<br>新技術・新素材……3社 |
| 第20回 | 機器・試薬セミナー | 免疫化学……19社<br>ドライケミストリー……5社<br>細菌学的検査の自動機器……4社<br>フローサイトメトリー……3社 |
| 第21回 | 機器・試薬セミナー | 免疫検査の自動化……12社<br>ドライケミストリー……6社<br>生化学自動分析における特殊分析のアプリケーション……3社<br>凝固・線溶阻止物質検査の自動化……4社<br>新技術・新素材……3社 |
| 第22回 | 機器・試薬セミナー | スーパーマルチおよび搬送システム・前処理システム……5社<br>免疫血清検査……14社<br>ドライケミストリー……7社<br>白血球自動分類装置……5社<br>微生物検査……3社 |

| | セミナー | テーマ・参加状況 |
|---|---|---|
| 第 23 回 | 機器・試薬セミナー | 各種免疫血清検査自動化測定装置の開発と評価 ……9社<br>前処理と後処理・検体の前処理からデーターバンクまで……6社<br>スーパーマルチ自動分析装置 ……4社<br>新しいアレルギー検査法の開発と特長 ……6社<br>血液ガス・電解質測定の評価 ……3社<br>DNAと染色体検査……5社 |
| 第 24 回 | 機器・試薬セミナー | 前処理システム……4社<br>ミニシステム（小規模システム）……5社<br>自動分析装置と試薬およびコントロール物質 ……5社<br>微生物検査 ……4社<br>新技術・新素材 ……3社<br>生理機能検査の自動化 ……6社<br>免疫血清検査 ……9社 |
| 第 25 回 | 機器・試薬セミナー | 免疫血清検査 ……7社<br>血液凝固検査 ……4社<br>生化学検査 ……4社<br>ラボシステム ……4社<br>化学発光検査 ……6社<br>尿検査 ……4社<br>新技術 ……5社 |
| 第 26 回 | 機器・試薬セミナー | 化学発光……5社<br>免疫血清……10社<br>生化学 ……5社<br>ラボシステム ……4社<br>新技術（尿検査）……3社<br>血液 ……6社 |
| 第 27 回 | 機器・試薬セミナー | ラボシステム・搬送 ……6社<br>一般検査……7社<br>生化学 ……5社<br>血液凝固・形態検査 ……7社<br>免疫化学……13社 |
| 第 28 回 | 機器・試薬セミナー | 生化学……7社<br>免疫化学……12社<br>血液検査……7社<br>ラボシステム・搬送 ……5社<br>一般検査・新技術 ……6社 |
| 第 29 回 | 機器・試薬セミナー | 臨床血液・輸血……7社<br>臨床化学……4社<br>臨床免疫・免疫化学 ……7社<br>ラボシステム・搬送 ……9社<br>感染症遺伝子検査・一般検査……6社 |
| 第 30 回 | 機器・試薬セミナー | 臨床化学・一般検査 ……5社<br>臨床免疫・免疫化学 ……9社<br>臨床血液……5社<br>ラボシステム ……6社 |
| | | |

# ■日本臨床検査自動化学会春季セミナーのあゆみ

| 回数 | 開催日 | 開催地 | 大会長 | 出展会社数 | | 主なるシンポ、講演など |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 機器 | 試薬 | |
| 第1回 | 昭和62年5月30日 | 盛岡 | 岩手医大　伊藤忠一 | 18 | 10 | 免疫血清検査の将来展望と自動化 |
| 第2回 | 昭和63年5月21日 | 松江 | 島根医大　遠藤治郎 | 17 | 2 | 臨床検査の自動化―その発想の転換 |
| 第3回 | 平成元年6月24日 | 熊本 | 熊本大　岡部紘明 | 23 | 3 | 緊急検査の意義と自動化 |
| 第4回 | 平成2年5月26日 | 金沢 | 金沢大　松原藤継 | 16 | 7 | 検査室の自動化における精度管理 |
| 第5回 | 平成3年6月1日 | 長崎 | 長崎大　臼井敏明 | 15 | 4 | 診療現場における臨床検査 |
| 第6回 | 平成4年4月11日 | 新潟 | 東新潟病院　屋形　稔 | 10 | 4 | 免疫血清検査の標準化 |
| 第7回 | 平成5年3月13日 | 水戸 | 筑波大　中井利昭 | 10 | 9 | 21世紀の病院システム化への提言<br>感染症のDNA診断の問題点 |
| 第8回 | 平成6年5月8日 | 宜野湾(沖縄) | 琉球大　外間政哲 | 9 | 5 | 微生物検査自動化の現状と展望 |
| 第9回 | 平成7年4月21日 | 秋田 | 秋田大　上杉四郎 | 10 | 7 | 自動化検査のニューフロンティア |
| 第10回 | 平成8年4月19日 | 高知 | 高知医大　佐々木匡秀 | 11 | 6 | 大手企業のシステム化 |
| 第11回 | 平成9年4月26日 | 福島 | 福島医大　吉田　浩 | 16 | 6 | 臨床検査自動機器の精度管理 |
| 第12回 | 平成10年4月18日 | 甲府 | 山梨医大　久米章司 | 6 | 5 | 臨床検査・21世紀への展望 |
| 第13回 | 平成11年4月24日 | 大宮 | 埼玉医大　池田　斉 | | | |

## ■出展会社と来場者の推移



●来場者職種（%）

| 来場者の職種 | 第25回 | 第26回 | 第27回 | 第28回 | 第29回 |
|---|---|---|---|---|---|
| 医師 | 1.3 | 1.5 | 1.6 | 1.6 | 1.0 |
| 臨床衛生検査技師 | 30.2 | 32.5 | 36.7 | 29.7 | 31.2 |
| 薬剤師 | 2.7 | 2.5 | 1.9 | 2.1 | 1.9 |
| 看護婦 | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| 事務職員 | 3.7 | 3.9 | 3.1 | 4.0 | 3.6 |
| 研究開発職員 | 14.7 | 16.5 | 13.7 | 16.2 | 11.6 |
| 営業職員 | 26.5 | 27.0 | 27.4 | 27.0 | 27.4 |
| 学生 | 0.9 | 0.9 | 0.4 | 0.9 | 0.2 |
| その他 | 11.6 | 8.8 | 11.0 | 13.9 | 13.0 |

●来場者の勤務先（%）

| 来場者の勤務先 | 第25回 | 第26回 | 第27回 | 第28回 | 第29回 |
|---|---|---|---|---|---|
| 病院 | 25.1 | 27.6 | 31.4 | 24.8 | 25.7 |
| 検査センター | 7.7 | 7.4 | 7.7 | 7.0 | 6.8 |
| 保健所 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 0.3 | 0.2 |
| 官公庁研究機関 | 0.5 | 0.5 | 0.7 | 0.5 | 0.5 |
| 民間企業研究機関 | 5.6 | 6.7 | 4.1 | 4.4 | 4.2 |
| メーカー・商社 | 45.7 | 44.7 | 42.6 | 48.7 | 43.0 |
| ディーラー | 6.8 | 5.8 | 8.3 | 7.1 | 8.0 |
| その他 | 5.1 | 5.4 | 4.4 | 6.1 | 5.5 |

●臨床検査技師担当内訳（%）

| 検査技師の内訳 | 第25回 | 第26回 | 第27回 | 第28回 | 第29回 |
|---|---|---|---|---|---|
| 技師長 | 12.2 | 16.5 | 16.2 | 16.8 | 14.4 |
| 免疫血清 | 14.9 | 17.7 | 18.5 | 18.4 | 16.0 |
| 生化学 | 31.9 | 32.2 | 28.6 | 27.9 | 24.0 |
| 細菌 | 4.3 | 4.8 | 4.3 | 2.9 | 3.1 |
| 生理 | 4.1 | 3.2 | 3.0 | 2.7 | 2.6 |
| 血液 | 15.3 | 13.2 | 11.7 | 11.7 | 9.8 |
| 一般 | 6.5 | 4.3 | 4.0 | 4.3 | 3.3 |
| 病理 | 1.9 | 1.5 | 1.1 | 1.0 | 1.0 |
| RIA | 2.2 | 1.3 | 1.0 | 1.1 | 0.9 |
| その他 | 3.5 | — | — | 6.4 | 5.8 |
| 無記名 | 3.2 | 5.1 | 5.2 | 6.8 | 19.1 |

●海外からの来場者内訳（人）

| 国　名 | 第25回 | 第26回 | 第27回 | 第28回 | 第29回 |
|---|---|---|---|---|---|
| アメリカ | 31 | 41 | 57 | 45 | 51 |
| 韓　　国 | 26 | 26 | 47 | 54 | 99 |
| ド イ ツ | 17 | 5 | 19 | 6 | 37 |
| オーストラリア | 9 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| イギリス | 7 | 9 | 6 | 3 | 3 |
| 台　　湾 | 6 | 17 | 7 | 7 | 28 |
| フランス | 5 | 14 | 7 | 0 | 2 |
| イタリア | 3 | 10 | 3 | 1 | 5 |
| オランダ | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| ス イ ス | 3 | 3 | 2 | 3 | 0 |
| そ の 他 | 26 | 44 | 43 | 35 | 40 |
| 合計 | 136 | 172 | 194 | 154 | 267 |

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（2-1）

| 大会年度 | 科学技術 | 医学・医療 | 一般社会 | 出版物 | ヒット商品 | 流行語 | テレビ・映画ヒットソング |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1回<br>1969(昭44) | ●地震予知連絡会議が発足(4/24)<br>●原子力船「むつ」進水(6/12)<br>●アポロ11号月面に着陸(7/20)<br>●家庭用ビデオ発表。ソニーベータ、松下VHS(10/24)<br>●Edelman(米)・Porter(英)免疫グロブリンの全一次構造決定<br>●電算機応用全自動写植システムの開発 | ●世界初の大腸検診用ファイバースコープ実用化(オリンパス光学)(4/28)<br>●ライ菌培養に成功(国立予研)(4/19)<br>●人工甘味料チクロ全面使用禁止(10/29)<br>●DDT・BHC製造中止(BHC工業会)(12/10) | ●安田講堂事件解決。学園紛争沈静化(1/19)<br>●国鉄、1・2等廃止、グリーン車を新設(5/10)<br>●初の公害白書発表(5/23)<br>●東名高速道路全通(着工昭37/5)東京―西宮536.4km(5/26)<br>●箱根町に彫刻の森美術館が開館(8/1)<br>●日本のGNPが自由世界第2位「豊かな時代に」 | ●天と地と(海音寺潮五郎)<br>●赤頭巾ちゃん気をつけて(庄司薫)<br>●都市の論理(羽仁五郎)<br>●断絶の時代(P・Fドラッカー) | ●セブンスター<br>●シースルールック | ●エコノミックアニマル<br>●断絶<br>●やったぜベイビー | ●ローズマリーの赤ちゃん<br>●男はつらいよ(48作)<br>●橋のない川<br>●ひみつのアッコちゃん<br>●黒ネコのタンゴ(皆川おさむ) |
| 第2回<br>1970(昭45) | ●国産初の人工衛星「おおすみ」打上げ(2/11)<br>●国鉄リニアモーターカーの研究チーム発足(5/18)<br>●田村善蔵(東大)スモン患者緑色尿中よりキノホルム鉄キレート化合物確認発表(6/30)<br>●広中平祐数学のフィールズ賞受賞(9/1)<br>●公害関係14法成立。公害問題多発(12/25) | ●臨床検査技師・衛生検査技師等に関する法律公布(5/13)<br>●医薬品製造指針(1970年版)に臨床診断用医薬品の項設置<br>●平山雄(国立がんセンター)喫煙者の癌死亡率は非喫煙者の2倍、肺癌は7倍と発表(6/23)<br>●医薬品広告の自粛要請(6/26)<br>●スモン病の原因は整腸剤キノホルムにあると発表(神経学会)(9/15)<br>●日本消化器病学会肝機能研究班会議(昭和36/1発足)は一時休会 | ●日本万国博覧会開幕6,420万人入場(3～9)<br>●ボーイング747ジャンボ一番機羽田到着(3/11)<br>●米生産調整対策(減反政策)始まる(4)<br>●日本の呼称を「ニッポン」に統一(7/14)<br>●光化学スモッグ公害発生(7/27)<br>●歩行者天国始まる(8/2)<br>●人口が1億人を超える。102,774千人(10/1) | ●冠婚葬祭入門(塩月弥栄子)<br>●公害の政治学(宇井純)<br>●未来の衝撃(A・トフラー) | ●サントリーオールド二本箸作戦<br>●缶コーヒー | ●生活がかかってる<br>●しらけ<br>●おぬしやるな | ●トラトラトラ<br>●戦争と人間<br>●走れコータロー |
| 第3回<br>1971(昭46) | ●日本初の科学衛星「しんせい」打上げ(9/28)<br>●NHK総合テレビ全番組カラー化(10/10)<br>●インテル社(米)が汎用マイクロプロセッサ4001を開発、今日のパソコンブームの基礎を築く | ●日本医師会保険医辞退で騒動(5～7)<br>●環境庁発足(7/1)<br>●臨床検査技師第1回国家試験実施(8/22)<br>●全医薬品の副作用報告義務化(11/15) | ●アスワン・ハイ・ダム完成(エジプト)(1/15)<br>●国際石油資本各社、日本石油各社に原油の値上げ通告(2/14)<br>●マクドナルド1号店銀座に開店(7/20)<br>●ニクソンショック。ドル防衛のための新経済政策発表。暫定的円の変動相場制移行(8/28)1＄=360円固定相場制終わる。1＄=314円(12/29)<br>●中国の国連復帰(10/25) | ●日本人とユダヤ人(イザヤ・ベンダサン)<br>●春の坂道(山岡荘八)<br>●レイテ戦記(大岡昇平) | ●ジーンズ<br>●電子ジャー<br>●アルミ缶ビール | ●脱サラ<br>●がんばらなくっちゃ<br>●ディスカバージャパン | ●肝っ玉かあさん<br>●仮面ライダー<br>●私の城下町(小柳ルミコ)<br>●知床旅情(加藤登紀子) |
| 第4回<br>1972(昭47) | ●原子時刻を協定世界時として採用<br>●電電公社ファクシミリの送受信用に電話回線開放<br>●国鉄リニアモーターカーの初実験に成功(9/19)<br>●CVCCエンジン搭載車公表(本田技研)(10/11) | ●第2次ベビーブーム始まる。205万人出生<br>●過疎地の医師不足対策に自治医科大学が発足(4/1)<br>●PCB汚染対策推進会議設置(4/28)<br>●たばこに「健康のため吸いすぎに注意しましょう」と表示することが決定(4/20)<br>●東京都に初の老人専門病院開院(6/1)<br>●難病総合対策発表(20疾患に拡大)(10/2) | ●郵便料金値上げ。はがき10円、封書20円(2/1)<br>●第11回冬季オリンピック(札幌)開幕(2/3－13)<br>●高松塚古墳発見(3/21)<br>●日米沖縄返還協定発効(5/15)<br>●日中共同声明調印。日中国交正常化成る(9/29)<br>●道交法改正で初心者マーク義務化(10/1)<br>●パンダ初公開(上野動物園)(11/5) | ●恍惚の人(有吉佐和子)<br>●坂の上の雲(司馬遼太郎)<br>●日本列島改造論(田中角栄) | ●マンション<br>●カップヌードル<br>●カシオミニ | ●恍惚の人<br>●ナウな<br>●のんびりゆこうよ<br>●恥ずかしながら | ●ゴッドファーザー<br>●死刑台のメロディー<br>●瀬戸の花嫁(小柳ルミコ) |
| 第5回<br>1973(昭48) | ●国鉄 国分寺コンピューターセンター開設。座席の自動予約を実施(1/20)<br>●石坂公成 アレルギー原因物質「IgE」を東京の学会で発表(10/15)<br>●江崎玲於奈 ノーベル物理学賞受賞(10/23)<br>●国連大学の日本設置を決定(12/6) | ●老人福祉法改正。70才以上の老人医療費無料化(1/1)<br>●サッカリンの使用を制限(12/18)<br>●森永ミルク中毒事件、恒久救済策三者合意(12/23)<br>●文部省、全都道府県に医大、医学部設置を決定(12/29) | ●円変動相場制に移行。1＄=271円20銭(2/14)<br>●野生動植物保護のワシントン条約採択(3/2)<br>●鉄道弘済会販売店を「キヨスク」と改称(8/1)<br>●国鉄中央線にシルバーシート設置(9/15)<br>●第1次オイルショック(OPEC原油公示価格21％引き上げ)(10/23)<br>●100％資本自由化決定 | ●日本沈没(小松左京)<br>●華麗なる一族(山崎豊子)<br>●国取り物語(司馬遼太郎) | ●ゴキブリホイホイ<br>●電気餅つき器<br>●セイコークォーツ(液晶デジタル腕時計) | ●お客さまは神さまです<br>●じっと我慢の子<br>●日本沈没<br>●せまい日本そんなに急いでどこへ行く<br>●嫌煙権 | ●8時だよ全員集合<br>●北の家族<br>●刑事コロンボ<br>●草原の輝き(アグネスチャン) |
| 第6回<br>1974(昭49) | ●国立公害研究所発足(3/15)<br>●原子力船「むつ」放射能漏れで海上漂流(9/1)<br>●地震予知研究推進会議を設置(11/7)<br>●ICの完全自由化 | ●京大医学部公衆衛生学教室、血清肝炎の院内感染につき警告(2/19)<br>●HB抗原がDNA型ウイルスであることを確認(志方ら)<br>●大腿四頭筋拘縮症社会問題化(5/26)<br>●日本消化器病学会肝機能研究班会議再発足(7/24)<br>●GMP(医薬品の製造および品質に関する基準)を通達(9/14)<br>●国立病院医療センター(東京)発足(11/30) | ●物価は狂乱状態と発表(1/12)<br>●高野連「公式試合での金属バット使用」を許可(3/4)<br>●セブンイレブン1号店(深川)オープン(5/15)<br>●佐藤栄作ノーベル平和賞受賞(10/8)<br>●地域気象観測システム「アメダス」使用開始(11/1)<br>●GNPが前年比0.67％減(戦後初のマイナス成長)(12/13) | ●かもめのジョナサン(リチャード・バック)<br>●ノストラダムスの大予言(五島勉)<br>●たべながらやせる健康食(中村鉱一) | ●オセロゲーム<br>●ジグソーパズル | ●諸悪の根源<br>●それはいえる<br>●日記には書いておこう | ●サンダカン八番娼館<br>●エマニエル夫人<br>●襟裳岬(森進一) |
| 第7回<br>1975(昭50) | ●文部省、初の学術白書「わが国の学術」を発表(8/30)<br>●日本初の誘導式Nロケット1号機打上げ(9/9)<br>●ソ連自動惑星間ステーション「金星9・10号」金星(ビーナス)に軟着陸<br>●核融合研究体制整う | ●体外診断用医薬品基準作成班会議(松橋研究班)発足(1/6)<br>●三種混合ワクチンによる死亡事故発生、接種一時中止、4月に再開(1/30)<br>●川崎病急増(これまでの患者1万人)<br>●東女医大、日本初のCTスキャナー導入(8/26)<br>●肝機能検査選択基準(昭和37/9策定)改定(第一次)(肝機能研究班会議)(9)<br>●日本臨床病理同学院設立(10/25) | ●新幹線博多まで延長(3/10)<br>●沖縄国際海洋博始まる(7/19－昭51・1/8)<br>●秦始皇帝の兵馬俑坑発見を発表(7/10)<br>●駅売り夕刊紙「日刊ゲンダイ」創刊(10/27)<br>●公労協スト権ストに突入。国鉄全線ストップ。192時間の空前の大規模スト(11/26－12/3)<br>●赤字国債発行のための財政特別法成立(12/24) | ●複合汚染(有吉佐和子)<br>●収容所列島(ソルジェニーツィン) | ●紅茶キノコ<br>●使い捨てライター | ●ひと味ちがいます<br>●わたし作る人ばく食べる人<br>●おじゃま虫 | ●欽ちゃんのドンとやってみよう<br>●金環蝕<br>●ジョーズ<br>●およげ!たいやきくん(子門真人)<br>●シクラメンのかほり(布施明) |
| 第8回<br>1976(昭51) | ●物質特許制度実施(1/1)<br>●宇宙開発事業団、初の実用衛星「うめ」を打上げる(2/29)<br>●電電公社、光ファイバー通信を開発(6/1)<br>●イタリア・セベソのTCP工場で爆発事故。ダイオキシン類への社会的な関心高める(7/10)<br>●米・火星無人探査機バイキング1号火星着陸に成功(7/20)<br>●英仏共同開発「コンコルド」就航 | ●日本安楽死協会(後の日本尊厳死協会)設立(1/20)<br>●鹿児島に五つ子(2男3女)誕生(1/31)<br>●大腿四頭筋拘縮症の原因は安易な注射と発表(小児科学会)(4/12)<br>●WHO総会「喫煙と健康」「天然痘根絶計画」決議(5)<br>●臨床病理学会、日本医学会への加入承認(6/28)<br>●漢方製剤の薬価基準収載(9/1) | ●大和運輸宅配システム「宅急便」を開始(1/20)<br>●郵便料金値上げ。はがき20円、封書50円(1/25)<br>●ロッキード事件起こる(2/4)<br>●偏差値時代(3/5)<br>●政府、領海12カイリ、経済水域200カイリを原則承認(3/9)<br>●環境庁、環境アセスメント法の要綱作成(4/2)<br>●新幹線「こだま」に禁煙車両登場 | ●毎日が日曜日(城山三郎)<br>●限りなく透明に近いブルー(村上龍)<br>●不毛地帯(山崎豊子) | ●がん保険<br>●女性用ブーツ | ●金権政治<br>●はしゃぎすぎ<br>●記憶にございません | ●愛のコリーダ<br>●北の宿から(都はるみ)<br>●ベッバー警部(ピンク・レディー) |

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（2-2）

| 大会年度 | 科学技術 | 医学・医療 | 一般社会 | 出版物 | ヒット商品 | 流行語 | テレビ・映画ヒットソング |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 9 回<br>1977(昭52) | ●静止衛星「ひまわり」から初の気象画像受信(9/8)<br>●リニアモーターカー浮上に成功(12/17)<br>●ポテトとトマトの雑種を細胞融合で作る。ポマトと命名(メルヒャース・西独)<br>●都市ごみ焼却炉のフライアッシュにダイオキシン類が含まれていることを発表(オランダ・オリエら) | ●アルコール中毒専門病棟が開設(横須賀・久里浜病院)(5/14)<br>●国立循環器病センター開設(大阪)(7/4)<br>●国税庁、医師優遇税制は不公平の典型と(11/9)<br>●米国、栄養問題特別委員会レポート「米国における日本食ブームのはじめ」<br>●臨床診断用医薬品原料規格を制定(厚生省) | ●東京大学創立100年記念(4/12)<br>●国公立共通一次の大学入試センター発足(5/2)<br>●曲尺・鯨尺の製造販売を許可する(昭34年メートル法に統一)(9/16)<br>●サラ金被害者の会結成(大阪)(10/24)<br>●ハイジャック防止対策法成立(11/25) | ●人間の証明(森村誠一)<br>●エーゲ海に捧ぐ(池田満寿夫)<br>●ルーツ(A・ヘイリー) | ●布団乾燥機<br>●カラオケ<br>●プリントゴッコ | ●落ちこぼれ<br>●ルーツ<br>●話がピーマン | ●幸福の黄色いハンカチ<br>●宇宙戦艦ヤマト<br>●雨やどり(さだまさし)<br>●津軽海峡冬景色(石川さゆり) |
| 第 10 回<br>1978(昭53) | ●初の国産原子炉「ふげん」が臨界に達する(3/20)<br>●初の国産民間ジェット機完成(三菱重工)(7/26)<br>●国土地理院、昭和39年以来進めていた2万5千分の1の地図作り完成(8/19)<br>●日産自動車、電子制御気化器搭載「ブルーバード」発表。以後自動車の電子化進む(8/25)<br>●日本語ワープロ「JW-10」東芝登場。1台630万円(9/26)<br>●香川県豊島、廃棄物の不法投棄はじまる | ●はしかの予防接種義務化<br>●厚生省、平均寿命　男72.69才、女77.95才で世界一の長寿国と(7/1)<br>●英国、世界初の体外受精児(試験管ベビー)出産(7/25)<br>●米国、人工遺伝子を大腸菌に組込みヒトインシュリンの合成に成功(9/6)<br>●結核が10大死因から姿を消す(9/24) | ●「嫌煙権確立をめざす人びとの会」結成。禁煙、嫌煙運動が盛んに(2/18)<br>●東京教育大学が閉学(106年の歴史閉じる)(3/15)<br>●東京池袋に超高層ビル「サンシャイン60」竣工(4/5)<br>●新東京国際空港開港(5/20)<br>●日中平和友好条約調印(8/12)<br>●東京に大規模店「八重洲ブックセンター」開店(9/18) | ●頭のいい税金の本(野末陳平)<br>●五味手相教室(五味康祐)<br>●不確実性の時代(ガルブレイス) | ●TVゲーム<br>●サバンナRX-7<br>●ホカロン | ●窓際族<br>●逆転の時代<br>●キャリアウーマン<br>●ちょっといい話 | ●キタキツネ物語<br>●スターウォーズ<br>●未知との遭遇<br>●君のひとみは一万ボルト(アリス) |
| 第 11 回<br>1979(昭54) | ●米スリーマイル島原子力発電所大量の放射能漏れ事故(3/28)<br>●日本電気、パソコンPC800を発表(5/9)<br>●真空管の国内生産が終了(松下電子)(7/31)<br>●シャープ、国産初の携帯英和、和英翻訳機 IQ3000を発表(11/3)<br>●IBM4300発表(第4世代コンピュータ時代の幕開) | ●薬事二法成立(新薬の承認基準が厳しくなる)<br>●製薬協、医薬情報担当者資質向上のための教育研修要綱決定(6/20)<br>●厚生省委託研究班、B型肝炎ワクチンを開発(6/29)<br>●日本初の死体腎移植が行われる(国立佐倉病院)(7/22)<br>●米国、板倉啓壱ら、ヒト成長ホルモンを大腸菌に作らせる(8/21)<br>●認定医審議会、臨床検査医制度決定(10/6) | ●共通一次学力試験開始(1/13)<br>●奈良市で太安万呂の墓出土(1/20)<br>●全国ダイヤル即時通話化完成(3/14)<br>●EC事務局、日本人は「うさぎ小屋に住む仕事中毒者」と表現(3/21)<br>●元号法案可決「昭和」以降も元号が続く(4/24)<br>●ガソリンスタンドの日曜祝日全面休業へ(5/27)<br>●東京サミット(第5回)開催(6/28) | ●天中殺入門(和泉宗章)<br>●ジャパン・アズ・ナンバーワン(ヴォーゲル) | ●超音波美顔器<br>●35ミリ自動焦点カメラ | ●インベーダー<br>●ウサギ小屋<br>●省エネ | ●復讐するは我にあり<br>●銀河鉄道999<br>●エイリアン<br>●関白宣言(さだまさし)<br>●魅せられて(ジュディ・オング) |
| 第 12 回<br>1980(昭55) | ●国立予研、遺伝子組み込みによる抗生物質生産菌の生成に成功(4/3)<br>●世界最大の粒子加速装置ヘリオトロン完成(京大核融合研究センター)(6/14)<br>●癌研、大腸菌利用インターフェロン量産に成功(7/30) | ●食品の殺菌・漂白に過酸化水素の使用禁止(厚生省)(1/11)<br>●WHO天然痘根絶宣言(5/8)<br>●臨床検査技師・衛生検査技師等に関する法律の改正ですべての衛生検査所は登録を要する | ●第二次オイルショック「省エネルギーの日」政府が提唱(2/1)<br>●情報公開法を求める市民運動が発足(3/29)<br>●民法改正公布。配偶者に二分の一の遺産相続(5/17)<br>●気象庁、天気予報に「降水確率予報」を開始(6/1)<br>●国民生活調査。生活程度が「中流」は87％(8/24) | ●項羽と劉邦(司馬遼太郎)<br>●蒼い時(山口百恵) | ●ウォークマン<br>●ルービックキューブ | ●クレーマー家庭<br>●竹の子族<br>●カラスの勝手でしょ | ●シルクロード<br>●クレイマー・クレイマー<br>●雨の慕情(八代亜紀)<br>●贈る言葉(武田鉄矢) |
| 第 13 回<br>1981(昭56) | ●太陽熱発電成功(香川県)(8/6)<br>●福井謙一(京大教授)ノーベル化学賞受賞(10/19)<br>●核移植で3匹のマウス(クローン動物)を作る(スイス・イルメンゼー) | ●がん、死因第1位に。昭和26年以来脳卒中が1位(3/5)<br>●診療報酬大幅に改定。検査料大幅に変更(マルメ導入)薬価基準大幅値下げ、18.6％。医療費の抑制始まる(6/1)<br>●米国CDC、MMWRにロサンゼルスにおけるニューモシスチス肝炎と報告。エイズの登場(6/5) | ●厚生省調査、気分転換の方法第1位は男性は酒、女性はおしゃべり(1/4)<br>●国鉄、東京・上野・新宿駅に喫煙コーナー開設(1/15)<br>●北方領土の日(2/7)<br>●神戸ポートアイランド博覧会(ポートピア81)開幕(3/20－9/30)<br>●商法改正公布。総会屋への利益供与を禁止(6/9)<br>●食管法改正公布。米穀通帳廃止、贈答自由化(6/11) | ●窓ぎわのトットちゃん(黒柳徹子)<br>●なんとなくクリスタル(田中康夫)<br>●人間万事塞翁が丙午(青島幸男)<br>●写真週刊誌 | ●ダウン(羽毛)もの<br>●パソコン<br>●ポスト・イット<br>●ウーロン茶 | ●クリスタル族<br>●はちのひとさし<br>●ぶりっ子<br>●粗大ゴミ | ●おんな太閤記<br>●エレファントマン<br>●スニーカーぶるーす(近藤真彦) |
| 第 14 回<br>1982(昭57) | ●米、スペースシャトル(コロンビア号)世界初の再使用可能有人宇宙船打上げ(4/12－14)<br>●新世代コンピュータ技術開発機構設立。第5世代コンピュータ開発めざす(4/14)<br>●国鉄リニアモーターカー世界で初の有人浮上走行に成功(9/2)<br>●コンピュータのプログラムは著作物に当たると判断を示す(東京地裁)(12/6) | ●日本医師会長・武見太郎引退(昭和32年就任、23年続く)<br>●肝機能検査選択基準改定(第二次)肝機能研究班(3)<br>●体協「スポーツドクター」制度発足(5/12)<br>●「川崎病」急増。患者数過去最高と(5/29)<br>●米国CDC、当時問題となっている疾病を「後天性免疫不全症候群(AIDS)」と発表(9/24)<br>●癌研、成人T細胞白血病ウイルスの遺伝子構造を解明(12/8) | ●500円硬貨発行(4/1)<br>●東北(6/23)、上越(11/15)新幹線開業<br>●第二次臨調「増税なき財政再建」を建議(7/30)<br>●テレホンカード登場(8/5)<br>●フランス新幹線TGV営業開始(9/27)<br>●校内暴力急増 | ●悪魔の飽食(森村誠一)<br>●吉里吉里人(井上ひさし)<br>●積木くずし(穂積隆信)<br>●気くばりのすすめ(鈴木健二) | ●ポカリスエット<br>●ツーピースボール<br>●ホールインワン保険<br>●紙おむつ | ●風見鶏<br>●心身症<br>●ネクラ・ネアカ<br>●ほとんどビョーキ | ●蒲田行進曲<br>●ET<br>●プッシュマン<br>●聖母たちのララバイ(岩崎宏美) |
| 第 15 回<br>1983(昭58) | ●ソニー、フロッピー3.5インチ標準化に内外13社合意(1/11)松下、3インチ規格発表(2/21)<br>●海上保安庁、衛星測地で日本列島の位置は従来より470メートル北西と報告(8/12)<br>●初のCATV会社町田市で設立許可(11/11)<br>●愛媛大・立川涼教授、都市ごみの焼却場のフライアッシュおよび残渣からダイオキシン類を検出と発表(11/18) | ●老人保健法施行。医療費70才以上も一部有料化(2/1)<br>●わが国初の体外受精児(試験管ベビー)誕生(東北大)(3/13)<br>●日本医学会でスギ花粉症は免疫抑制遺伝子の欠如が原因との研究発表(4/10)<br>●厚生省、エイズの実態把握に関する研究班を発足(6/13)<br>●米、医療保険にDRG-PPS方式導入(10)<br>●日本臨床検査薬協会発足(11)東薬工・大薬協臨床検査薬委員会が合同 | ●東京ディズニーランド開業(千葉県浦安市)(4/15)<br>●ローマ法皇、地動説のガリレイ有罪を撤回(5/9)<br>●初の比例代表制参院選挙(6/26)<br>●新車検制度実施。車検期間を3年に延長(7/1)<br>●サラ金規制二法施行(11/1)<br>●エアロビック・ダンス盛ん(NASAの美容体操) | ●探偵物語(赤川次郎)<br>●佐川君からの手紙(唐十郎)<br>●嫌煙権を考える(伊佐山芳郎) | ●東京ディズニーランド<br>●焼酎<br>●日本名湯めぐり<br>●MSパウチ | ●いいとも<br>●おしん<br>●気くばり<br>●やるっきゃない<br>●軽・薄・短・小 | ●おしん<br>●戦場のメリークリスマス<br>●矢切の渡し(細川たかし) |
| 第 16 回<br>1984(昭59) | ●水道水の有機塩素化合物汚染深刻化。発ガン性の恐れのあるトリクロロエチレンなどの水質基準制定(2/18)<br>●衛星放送開始(5/12)<br>●電電公社、INS実験開始(三鷹市)(9/28)<br>●「陽子崩壊」の現象をつかまえる | ●大阪淀川キリスト教病院、ホスピス開設(4/7)<br>●厚生省「人口白書」発表。平均寿命 男74.2才、女79.8才。世界一(6/30)<br>●健康保険法改正。医療費の抑制が強化(本人1割負担、退職者医療制度)(8/14)<br>●全国の弁護士ら「患者の権利宣言」を発表(10/14)<br>●79年ぶり出生数が150万人割ると(厚生省)(12/31) | ●グリコ・森永脅迫事件(5/10)<br>●総務庁発足(7/1)<br>●自動車運転免許所持者が5000万人を突破(8/31)<br>●新一万円札(福沢諭吉)五千円札(新渡戸稲造)千円札(夏目漱石)発行(11/1)<br>●豪からコアラが来る(多摩動物公園)(11/20) | ●金魂巻(渡辺和博)<br>●プロ野球知らなきゃ損する(板東英二)<br>●第4の核(F・フォーサイス) | ●ゴルフ宅急便<br>●電子体温計・血圧計<br>●システム手帖 | ●パフォーマンス<br>●くれない族<br>●(金)・(ピ)<br>●イッキ飲み | ●お葬式<br>●おはん<br>●桃色吐息(高橋真梨子) |

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（2-3）

| 大会年度 | 科学技術 | 医学・医療 | 一般社会 | 出版物 | ヒット商品 | 流行語 | テレビ・映画ヒットソング |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17回<br>1985(昭60) | ●原研、トカマク型核融合実験装置「JT-60」でプラズマ生成に成功(4/8)<br>●有機錫化合物(TBTO)が天然魚に残留と(環境庁)(4/27)<br>●愛媛大・立川涼教授、ダイオキシンを初めて人体から検出と発表(12/24)<br>●厚生省「廃棄物処理におけるダイオキシン等の発生メカニズム等に関する研究」を5カ年計画で推進<br>●都市ごみ焼却施設の有害物質排出規制を実施(スウェーデン) | ●厚生省、初の日本人エイズ患者を認定(3/22)<br>●おいしい水研究会、報告をまとめる(4/24)<br>●体外診断用医薬品として法的位置付け明確化(薬務局長通知)(6)<br>●日本臨床検査標準協議会(JCCLS)発足(8/27)<br>●新しい脳死の判定基準発表(厚生省)(12/6)<br>●医療法改正(12/24) | ●両国、国技館開館(1/9)<br>●日本電信電話(NTT)、日本たばこ産業(JT)発足(4/1)<br>●放送大学開校。一期生17,038人(4/1)<br>●いじめ多発(いじめ白書)(4/18)●つくば科学博開幕(3/16－9/16)<br>●英仏調査隊、1912年沈没の「タイタニック号」を3800メートル深海で発見(9/2)<br>●昭和生まれ1億人を超す(人口121,048千人)(10/1) | ●アイアコッカ(アイアコッカ)<br>●マネー雑誌<br>●スーパーマリオブラザーズ完全攻略本 | ●ミノルタα-7000<br>●禁煙用パイプ<br>●8ミリビデオCCD-V8 | ●タイガースフィーバー(21年ぶり)<br>●やらせ・いじめ<br>●金妻<br>●カエルコール | ●傷つくし<br>●乱<br>●俺あ東京さいくだ(吉幾三) |
| 第18回<br>1986(昭61) | ●米スペースシャトル「チャレンジャー」空中爆発初事故(1/28)<br>●ソ連、チェルノブイリ原発事故起こる(4/26)<br>●初の国産液体水素エンジンと慣性誘導装置搭載のH1ロケット打上げ(8/13) | ●慶応大、男女"生み分け"実現(5/31)<br>●厚生省調査、心臓病が脳卒中を抜き死因2位に(6/26)<br>●厚生省、痴呆性老人対策本部を設置(8/29)<br>●WHO、エイズ患者は75カ国で3万人余りと(9)<br>●老人保健法改正(負担引き上げ老人保健施設)(12/22)<br>●献血、400ml採血と成分採血の実施 | ●株式市場、金余りを背景に円高、金利安、原油安という株高メリットが加わり空前の熱気(3/22)<br>●男女雇用機会均等法施行(4/1)<br>●ハレーすい星地球に大接近(ハレーブームわく)(4/11)<br>●日本テレコム(8/1)、第二電電(10/24)営業開始。NTT独占に幕<br>●都心地価急騰 | ●化身(渡辺淳一)<br>●マンガ日本経済入門(石の森章太郎)<br>●知価革命(堺屋太一) | ●テレフォンカード<br>●ファミコン<br>●フジカラー「写るんです」 | ●新人類<br>●変体少女文字<br>●シルバー産業<br>●元気印 | ●はね駒<br>●子猫物語<br>●海と毒薬 |
| 第19回<br>1987(昭62) | ●世界で初めて「ニュートリノ」をつかまえる(神岡鉱山地下1,000メートル)<br>●マゼラン星雲に超新星が出現<br>●新素材による高温超電導物質開発ブーム(8/20)<br>●利根川進教授ノーベル医学生理学賞受賞(10/12) | ●日本学術会議「脳死に関する見解」を発表<br>●社団法人日本衛生検査所協会設立(3/25)<br>●WHO、禁煙勧告宣言(4/1)<br>●臨床工学技士法制定(6/2)<br>●公衆衛生審「喫煙と健康問題に関する報告書」発表(10/16)<br>●肝疾患における肝炎ウイルスマーカーの選択基準(肝機能研究班)(11) | ●南氷洋での商業捕鯨に終止符(3/14)調査捕鯨は続ける(12/23)<br>●国鉄分割民営化、JRグループ11法人と国鉄清算事業団発足(4/1)<br>●ガット、農産物の自由化など日本市場の開放を強く要請<br>●全日本民間労働組合連合会(連合)が発足55単産540万人(11)<br>●ニューヨーク株価大恐慌を上回る暴落(22.6％下落)(ブラックマンデー)(10/19) | ●サラダ記念日(俵万智)<br>●塀の中の懲りない面々(安部譲二) | ●家庭用パン焼き器<br>●スーパードライ<br>●バイオ洗剤<br>●ミニ四駆 | ●財テク<br>●地上げ屋<br>●ビンボーン<br>●フリーター<br>●朝シャン | ●伊達数奈<br>●マルサの女<br>●アンタッチャブル |
| 第20回<br>1988(昭63) | ●32ビットパソコン時代の幕開け<br>●ペーパー電池実用化<br>●自然界に「第5・6の力」の存在検証<br>●医療廃棄物研究会(会長・小酒井望)発足(4)<br>●社団法人日本複写権センター(仮称)設立(10/17) | ●日本医師会生命倫理懇談会、脳死を個体死と認め脳死段階での臓器移植を可能とする報告書を答申(1/12)<br>●肝機能検査選択基準改定(第三次)肝機能研究班(2)<br>●診療報酬改定、検査料などの抜本的改定を行う(検体検査は判断料と実施料に分離、入院時調剤技術基本料(俗称100点業務)新設(4/1)<br>●JD-NFT(医薬品卸・メーカー間データ交換ネットワーク発足(5/23)<br>●エイズ予防法成立(12/23) | ●青函トンネル開業(3/13)<br>●東京ドーム(後楽園)完成(3/17)<br>●スポーツの振興に関する懇談会、五輪メダリストへの功労金支給を答申(3/30)<br>●本四連絡瀬戸大橋開通(4/10) ●牛肉、オレンジ自由化(6/20)<br>●「ふるさと創生」のための全国3245市町村に一律1億円の交付を決る(11/29) | ●ノルウェーの森(村上春樹)<br>●ゲームの達人(シドニー・シェルダン)<br>●裕さん抱きしめたい(石原まきこ) | ●中国産育毛剤101(101毛髪再生精)<br>●ファイブミニ<br>●マイ・カロリー | ●ベレストロイカ<br>●ハナモク<br>●おたく族<br>●テクノ・ストレス | ●テレビ報道番組ブーム<br>●ラストエンペラー<br>●敦煌<br>●となりのトトロ |
| 第21回<br>1989(平1) | ●環境庁、アスベストを法規制対象に決める(2/7)<br>●気象庁、フロンガスの温室効果で2030年代には気温が1.5～3.5度上昇と発表(4/5)<br>●ボイジャー海王星に最接近<br>●常温核融合熱駆け巡る<br>●地球環境保全に関心向く<br>●潜水調査船「しんかい6500」日本海溝で水深6527メートルの世界記録達成(8/11) | ●日本臨床検査薬協会、社団法人として発足(5/2)<br>●エイズ感染の血友病患者が大阪地裁に初のエイズ薬害訴訟(5/8)東京でも提訴(10/28)<br>●初の生体肝移植が行われる(島根医大)(11/13)<br>●凍結受精卵移植による双子の女児誕生(東京歯大)(12/25) | ●昭和天皇崩御「平成」と改元(1/7)<br>●銀行など金融機関の完全週休二日制スタート(2/4)<br>●消費税(3％)導入(4/1)<br>●横浜ベイブリッジ完成(9/27)<br>●幕張メッセ開業。コンベンション時代の幕開け(10/9)<br>●ベルリンの壁崩壊(11/11) | ●キッチン・うたかた／サンクチュアリ(吉本ばなな)<br>●天下は夢か(津本陽)<br>●人麻呂の暗号(藤村由加) | ●コードレス多機能電話<br>●国産高級車<br>●ゲームボーイ<br>●ハンディカム55 | ●オバタリアン<br>●茶魔語大流行 | ●魔女のたっきゅうびん<br>●レインマン<br>●その男凶暴につき |
| 第22回<br>1990(平2) | ●水の沸点99.974度に決まる(国際度量衡総会)<br>●宇宙科学研、日本初の月衛星「ひてん」打上げ(1/24)<br>●厚生省「医療廃棄物処理ガイドライン」実施(4)<br>●電気通信技術審、電波から人体を守る安全基準を答申(6)<br>●森重文教授、フィールズ賞受賞(日本人で3人目)(8/21)<br>●ソ連宇宙船「ソユーズTM II」で秋山豊寛、初の宇宙飛行(12/2)<br>●厚生省「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」通知(12) | ●気象協会「スギ花粉予報」を開始(2/13)<br>●厚生省、一人の女性が一生のうち産む子どもの数が1.57人と(昭41年丙午の出生率1.57人)(6/9)<br>●「あなたの健康を損なうおそれがありますので吸いすぎに注意しましょう。喫煙マナーをまもりましょう」JT表示を変更(7)<br>●病原性大腸菌「O-157」型による幼稚園児の集団下痢が発生(浦和)(10/19)<br>●「インフォームド・コンセント」「QOL」頻繁使用 | ●国連総会「麻薬乱用根絶の10年」を宣言(2/23)<br>●国際花と緑の博覧会(大阪)開幕(3/31－9/30)<br>●スパイクタイヤ粉じん発生防止法公布(6/27)<br>●厚生省調査、初婚年齢男25.8才、女28.5才、晩婚志向(9/5)<br>●東西ドイツ統一(10/3)<br>●皇太子明仁第125代天皇に即位(158カ国参列)(11/12)<br>●国会、議会開設百年式典挙行(11/29) | ●真夜中は別の顔(シドニー・シェルダン)<br>●文学部唯野教授(筒井康隆)<br>●愛される理由(二谷友里恵)<br>●「NO」と言える日本(石原慎太郎／盛田昭夫) | ●ノートブック型パソコン<br>●ミネラル補充の健康飲料 | ●ちびまる子現象<br>●オヤジギャル<br>●トリプル安 | ●おどるポンポコリン<br>●天と地と<br>●バック・トウ・ザ・フューチャー2<br>●われ撃つ用意あり<br>●少年時代 |
| 第23回<br>1991(平3) | ●世界最小の電子素子開発(日立)<br>●宇宙論ブーム「無」から生まれた宇宙。宇宙は無数に存在するなど<br>●太陽系以外の惑星発見<br>●廃棄物処理法改正。ごみの発生抑制およびリサイクルが謳われる | ●国立予研、虫歯原因ミュータンス菌の定着機構を解明(2/14)<br>●MRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)感染症広がる<br>●第1回医療機器政策検討会開催(9/19)<br>●尿糖・尿蛋白測定試験紙OTCに登場(10)<br>●大腸がん抑制遺伝子を解明<br>●アルツハイマー病で決定的役割をはたす酵素を発見 | ●湾岸戦争勃発(1/17－2/27)<br>●皇太子徳仁親王「立太子の礼」行われる(2/23)<br>●東京都庁、丸の内から新宿の新庁舎へ(1570億円)(4/1)<br>●長崎雲仙普賢岳大火砕流。死者40人(6/3)<br>●証券・金融機関の不祥事続発。バブル経済崩壊(7/25)<br>●豪華客船「飛鳥」就航。クルージング新時代到来(10/1)<br>●中央競馬会、1枠1頭制「馬番連勝複式」馬券発売(10/5)<br>●ドイツ高速鉄道「ICE」開業 | ●宮沢りえ写真集－サンタ・フェ－(篠山紀信)<br>●もものかんづめ(さくらももこ) | ●カルピスウォター<br>●携帯電話 | ●むかつく<br>●幸福の科学 | ●おもいでぽろぽろ<br>●ターミネーター2<br>●ニュース番組CNN世界をめぐる |

# ■日本臨床検査自動化学会展示会年表（2-4）

| 大会年度 | 科学技術 | 医学・医療 | 一般社会 | 出版物 | ヒット商品 | 流行語 | テレビ・映画ヒットソング |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24回<br>1992(平4) | ●電気自動車、ソーラーカーなど交通新時代へ<br>●厚生省「感染性廃棄物処理マニュアル」施行(7)<br>●毛利衛、米スペースシャトル「エンデバー」で宇宙飛行(9/12－18)<br>●計量法改正<br>●気象庁、気圧単位が「ヘクトパスカル」に(12/1)<br>●環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)による「精子論争」始まる(デンマーク・カールセンら) | ●厚生省エイズサーベイランス委員会、初めて地域別に感染者数公表('91年の感染者283名)(1/28)<br>●乳がんの原因遺伝子発見(3/15)<br>●厚生省「エイズストップ作戦本部」設置。検査体制の強化・予防啓蒙展開(10)<br>●医療法第2次改正。特定機能病院と療養型病床群を制度化(10/21)<br>●乳幼児突然死症候群(SIDS)が1才未満の乳幼児の死亡原因の第1位に | ●時速270キロ「のぞみ」登場。東京―新大阪間2時間30分(3/14)<br>●地球サミット(国連環境開発会議)(ブラジル)開催(6/3)<br>●山形新幹線「つばさ」開業。日本初のミニ新幹線(7/1)<br>●成田第二空港開港。複数ターミナルに(11/30)<br>●株暴落。不良債権対策など景気低迷深刻化 | ●複合不況(宮崎義一)<br>●心理ゲームブーム<br>●ウルトラマン研究序説(中経出版) | ●低カロリー食品ブーム<br>●スーパーファミコン<br>●アウトドアブーム | ●ほめ殺し<br>●ミンポー<br>●冬彦現象 | ●紅の豚<br>●JFK<br>●ミンポーの女 |
| 第25回<br>1993(平5) | ●ラムサール条約(水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)第5回締約国会議、釧路市で開かれる(6/9)<br>●ベルセウス座流星群(スイフトタットルすい星)130年ぶりに出現(8) | ●厚生省、日本人の血中総コレステロール値、10年前より大幅に上昇と報告(2/3)<br>●厚生省、新3種混合ワクチン接種中止を決定(4/10)<br>●WHO、保健医療機関勤務者に禁煙を求める(世界禁煙デー)(5/30)<br>●病院経営の悪化が目立つ<br>●全国的に卸業の大型合併相継ぐ<br>●ソリブジンと抗癌剤併用で14名死亡と発表(11/24) | ●サッカーJリーグ開幕。Jリーグブーム(5/15)<br>●皇太子、大和田雅子嬢とご成婚(6/9)<br>●冷夏、豪雨など異常気象。コメ緊急輸入(6－11)<br>●北海道南西沖地震。M7.8、死者231人(7/12)<br>●55年政治体制終焉。細川護熙連立内閣スタート(8/6)<br>●羽田空港新装。ビッグバード(9/27)<br>●コメ部分開放を決定(12/15) | ●女ざかり(丸谷才一)<br>●深い河(遠藤周作)<br>●清貧の思想(中野孝次) | ●Jリーググッズ<br>●形状記憶シャツ<br>●ナタデココ<br>●もつ鍋 | ●政治改革<br>●Jリーグ<br>●サポーター<br>●ジュリアナ現象<br>●規制緩和 | ●ジュラシックパーク |
| 第26回<br>1994(平6) | ●環境ホルモンに社会的関心高まる<br>●向井千秋、米スペースシャトル「コロンビア」にペイロードスペシャリスト(PS)として搭乗(7/8－23)<br>●最古の猿人化石発見(エチオピア)(9/22)<br>約440万年前地層から「アウストラピテクス」と命名 | ●原始的な細菌「ヒドロゲノバクター・アシドフィラス」を発見。電力中央研(1)<br>●薬剤管理指導料600点に改める(4/1)<br>●MR資格制度検討会設置(7)<br>●ニコチンガム「ニコレット」輸入される(7)<br>●肝機能検査選択基準改定(第4次)肝機能研究班(8)<br>●WHO発表、消化器系のがんに関係する「ヘリコバクターピロリ菌」(10) | ●郵政省、はがき50円、封書80円に値上げ(1/24)<br>●「子どもの権利条約」承認(3/29)<br>●色分け運転免許証施行。優良者に金、初心者に黄緑(5/10)<br>●青森三内丸山遺跡で約4000年前の木柱など見つかる(7/18)<br>●関西国際空港。24時間空港の出現(9/4)<br>●天気予報を作る人の国家資格、気象予報士生る(9/30)<br>●大江健三郎、ノーベル文学賞受賞(10/13) | ●大往生(永六輔)<br>●マディソン群の橋(ロバート・J・ウォラー)<br>●遺書(松本人志) | ●健康ブレスレット「ライマ」 | ●すったもんだがありました<br>●同情するならカネをくれ<br>●イチロー<br>●ゴーマニズム | ●平成狸合戦ぽんぽこ |
| 第27回<br>1995(平7) | ●マイクロソフト社、パソコン基本ソフト「ウインドウズ95」日本語版発売。パソコンブームへ(11/23)<br>●高速増殖炉原型炉「もんじゅ」冷却材ナトリウムが漏れる(12)<br>●容器包装リサイクル法が成立 | ●日薬連「医薬品のPLセンター」開設(7/1)<br>●(財)日本医療機能評価機構発足。第三者による病院機能評価事業スタート(7/1)<br>●北大、ADA欠損症児に日本初の遺伝子治療を実施(8/1)<br>●日本住血吸虫病終息宣言(山梨県地方病撲滅対策促進委)(11/16)<br>●エボラ出血熱、ザイールで大流行 | ●WTO(世界貿易機関)発足(1/1)<br>●阪神大震災。M7.2、死者5502人(1/17)<br>●地下鉄車中に「サリン」を流し11人死亡。オウム真理教事件(3/20)<br>●食管法廃止し新食糧法スタート(52年ぶりの新法)(4/1)<br>●製造物責任法(PL法)施行(7/1)<br>●不良債権の影響で金融機関倒産相つぎ不安拡大(6/6－) | ●毛沢東の私生活(季志緩)<br>●バラサイト・イブ(瀬名秀明) | ●抗菌グッズ<br>●やせる石けん | ●ボランテア元年<br>●無党派層<br>●キムタク現象<br>●パソコン通信<br>●インターネット<br>●ああ言えば上裕<br>●ポア | ●フォレスト・ガンプ<br>●ダイハード3 |
| 第28回<br>1996(平8) | ●地震調査研究推進本部発足<br>●気象庁、震度階級改定、47年ぶり<br>●若田光一、スペースシャトル「エンデバー」にペイロードスペシャリスト(PS)として搭乗<br>●ダイオキシン排出量全国実態調査(7) | ●診療報酬改正。検体検査管理加算と院内感染防止対策加算が実現(4/1)<br>●広がる新感染症「狂牛病」がヒトに感染する可能性を認める「O-157」ベロ毒素を産する「腸管出血性大腸菌感染症」を指定伝染病に<br>●がん検診論争活発<br>●米、たばこに規制強化(習慣性ある薬物として)(8) | ●薬害エイズ訴訟の和解が成立(3/29)<br>●住宅金融専門会社処理法成立(6/18)<br>●企業犯罪と不祥事が相つぐ<br>●小選挙区比例代表並立制での衆院選実施(10/20)<br>(大正14年以来の中選挙区制の廃止) | ●脳内革命(春山茂雄)<br>●弟(石原慎太郎)<br>●神々の指紋(グラハム・ハンコック) | ●プリクラ<br>●女高生のルーズソックス | ●官官接待<br>●援助交際<br>●自分で自分をほめたい | ●スーパーの女<br>●Shall we ダンス？ |
| 第29回<br>1997(平9) | ●厚生省「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」改正(1)<br>●クローン羊「ドリー」誕生(2/23)<br>●ヘールボップすい星最接近(3/22)<br>●火星探査機「マーズ・パスファインダー」火星に着陸(7/4)<br>●土井隆雄、スペースシャトル「コロンビア」にミッションスペシャリスト(MS)として搭乗(11/19－12/5)<br>●気候変動枠組条約第3回締約国会議(地球温暖化防止京都会議)温暖化ガス排出削減法を採択(12/1－11) | ●厚生省、機構改革(7/1)<br>●感染症情報センター発足<br>●健康保険法改正、医療費抑制強化(本人2割、薬剤負担など)(9/1)<br>●脳死をヒトの死とする臓器移植法施行(10/16)<br>●伝染病予防法改正の基本方針決まる(12/8)<br>●介護保険法成立。制度は2000年4月からスタート(12/9)<br>●MR資格制度認定試験開始(12) | ●タンカーから重油流出。日本海沿岸を汚染(1/2)<br>●消費税(5％)に増税(4/1)<br>●神戸の小学生殺害。14才の少年逮捕(6/28)<br>●香港、中国に返還(7/1)1841年領有から156年<br>●財政構造改革法成立(11/28)<br>●対人地雷全面禁止に向けて前進。121カ国が署名(12/3)<br>●金融機関の経営破たん。不祥事相つぐ(10) | ●失楽園(渡辺淳一)<br>●少年H(妹尾河童)<br>●不機嫌な果実(林真理子) | ●たまごっち<br>●ポケモン<br>●キシリトール<br>●ベルギーワッフル<br>●赤ワイン<br>●オーガニック<br>●ハイブリッドカー | ●パパラッチ<br>●日本版ビッグバン<br>●ガーデニング<br>●郵便3事業 | ●もののけ姫<br>●ポケットモンスター<br>●キャンドル・イン・ザ・ウインド(エルトン・ジョン)<br>●キャン・ユー・セレブレイト？(安室奈美恵) |
| 第30回<br>1998(平10) | ●クローンの人間への応用禁止(1/12)(欧州会議)<br>●2001年宇宙の旅受け付け開始(米・シアトル、ゼグラム・エクスペディションズ冒険旅行会社)($9,800/1人)(1/20)<br>●文部省・核融合科学研、世界最大の大型ヘリカル装置でプラズマ発生0.15秒、成功(3/31)<br>●環境ホルモン学会設立(6/9)<br>●ウインドウズ98日本語版発売(マイクロソフト社)(7/25) | ●厚生省「21世紀のたばこ対策検討会」設置(2/17)<br>●米、健康産業製造者協会(HIMA)東京事務所開設(4)<br>●厚生省、がん検診6種類のうち「乳がん、肺がん、子宮体がんは有効性が証明されていないか効果が小さい」と結論づけた報告書を公表(4/21)<br>●がん患者7人が国とJTを喫煙で肺がんになったと提訴(5/15)<br>●厚生省、一人の女性が一生に産む子どもの数が1.39人に「晩婚晩産」さらに強まる(6/10) | ●第18回冬季オリンピック(長野)開幕(2/7－22)<br>●キトラ古墳に精密な星宿図(3/6)<br>●スポーツ振興投票法(サッカーくじ)成立(5/11)2000年からスタート<br>●中央省庁等改革基本法が成立(6/9)2001年施行<br>●サッカーW杯フランス大会開幕(6/10－7/13)172カ国・地域、643試合の予選の結果32カ国が出場。日本、初挑戦から44年目の出場。<br>●平成9年度成長率、マイナス0.7％。戦後最悪(6/12)<br>(昭和49年0.5％減以来) | ●鉄道員(ぽっぽや)(浅田次郎)<br>●源氏物語(瀬戸内寂聴) | ●バイアグラ<br>●ハーブブーム<br>●デジタルTV | ●貸し渋り<br>●システム金融<br>●ワールドカップ | ●HANA-BI<br>●タイタニック |

# ■ノーベル賞受賞者一覧（医学生理学賞）

1901　E・フォン・ベーリング（独）……ジフテリア治療血清の創始
1902　R・ロス（英）……マラリア蚊とマラリア発育環境の発見
1903　N・R・フィンセン（デンマーク）……狼瘡の光線療法
1904　I・P・パブロフ（ロシア）……消化腺生理学の研究
1905　R・コッホ（独）……細菌学の創始及び諸細菌の発見
1906　C・ゴルジ（伊）、S・R・カハール（スペイン）……神経組織の構造研究
1907　C・L・A・ラブラン（仏）……マラリア寄生原虫の発見
1908　P・エールリヒ（独）……免疫に関する貢献
　　I・メチニコフ（仏）……食菌現象発見
1909　T・コッヒャー（スイス）……甲状腺の研究
1910　A・コッセル（独）……蛋白質・核酸の研究
1911　A・グルストランド（スェーデン）……眼科光学理論の研究
1912　A・カレル（仏）……血管縫合と臓器移植に関する業績
1913　C・リシュ（仏）……過敏症（アナフィラキシー）の研究
1914　R・バラニー（オーストリア）……三半規管と平衡感覚の研究
1915～1918　受賞者なし
1919　J・ボルデ（ベルギー）……補体結合反応・百日ゼキ菌の発見
1920　A・クローグ（デンマーク）……毛細管運動の調節に対する研究
1921　受賞者なし
1922　A・V・ヒル（英）……筋肉中の熱産生に関する研究
　　O・マイヤーホフ（独）……筋肉中の酸素の消費と乳酸産生の研究
1923　F・G・ベンティング（カナダ）、J・J・R・マクロード（英）……インシュリンの研究
1924　W・アイントホーヘン（オランダ）……心電計の発明
1925　受賞者なし
1926　J・A・G・フィービゲル（デンマーク）……ガン治療の研究
1927　J・W・ヤウレッグ（オーストリア）……マヒ性痴呆マラリア療法の貢献
1928　C・ニコル（仏）……発疹チフス及び発疹の療法に関する研究
1929　C・エイクマン（オランダ）……神経炎治療に役立つビタミンの研究
　　F・G・ホプキンス（英）……成長促進ビタミンの発見
1930　K・ランドシュタイナー（オーストリア）……血液型の発見・研究
1931　O・H・バールブルグ（独）……呼吸酸素の研究
1932　C・S・シェリントン（英）、E・D・エードリアン（英）……神経細胞の機能に関する諸発見
1933　T・H・モルガン（米）……ショウジョウバエの染色体遺伝の研究
1934　G・R・マイメット（米）、W・P・マーフィー（米）、G・H・ホイップル（米）……貧血治療に関する研究
1935　H・シュペーマン（独）……胎児成長での器官授与効果の研究
1936　H・H・デール（英）、O・レーヴィ（オーストリア）……神経刺激の化学的伝達に関する諸発見
1937　A・フォン・セント・ジェルジー（ハンガリー）……生物学的燃焼における諸発見
1938　C・ハイマンス（ベルギー）……呼吸調節における大動脈機構の研究
1939　G・ドマーク（独）……プロントジール食菌効果の発見（辞退）
1940～1942　受賞者なし
1943　H・ダム（デンマーク）、E・A・ドイジ（米）……ビタミンKの化学的性質の発見
1944　J・アーランジャー（米）、H・S・ギャッサー（米）……神経繊維機能の研究
1945　A・フレミング（英）、E・B・チェーン（英）、H・W・プーリ（英）……ペニシリンの発見
1946　H・J・マラー（米）……X線による人工変異の研究
1947　コリ夫妻（米）……グリコーゲンの代謝経路の研究
　　B・ウーセイ（アルゼンチン）……粘液腺におけるホルモンの研究
1948　P・ミューラー（スイス）……DDTの研究
1949　W・R・ヘス（スイス）……間脳の機構の発見
　　A・E・モニス（ポルトガル）……精神分裂症の前額部神経切断手術の研究
1950　E・C・ケンダル（米）、P・S・ヘンチ（米）、T・ライヒシュタイン（スイス）…リューマチ関節炎の特効薬コーチゾンの発見
1951　M・セーラー（南ア）……黄熱病ワクチンの発見
1952　S・A・ワクスマン（米）……ストレプトマイシンの発見
1953　F・A・リップマン（米）……アセチル化の機構解明と補酵素Aの発見
　　H・A・クレブス（英）……クエン酸サイクルの発見
1954　J・F・エンダース（米）、T・H・ウェラー（米）、F・ロビンス（米）……マヒのウイルス培養

| | | |
|---|---|---|
| 1955 | A・H・テオレル(スウェーデン) | 酸化酵素の研究 |
| 1956 | A・F・クールナン(米)、W・フォルスマン(独)、D・W・リチャーズ(米) | 心臓カテーテル法の開発と循環系の病的変化の研究 |
| 1957 | D・ボベ(伊) | クラレ作用物質の合成化学・薬理学的研究 |
| 1958 | G・W・ビードル(米)、E・L・テイタム(米)、J・リーダーバーグ(米) | 遺伝子の組換えとバクテリア遺伝物質の研究 |
| 1959 | S・オチョア(米)、A・コンバーグ(米) | リボ核酸およびデオキシリボ核酸の生理学的合成の機構の発見 |
| 1960 | P・B・メダウォア(英)、F・M・バーネット(オーストラリア) | 後天的免疫機構の発見 |
| 1961 | G・V・ベケシー(ハンガリー) | 内耳蝸牛殻刺激の物理構造研究 |
| 1962 | J・D・ワトソン(米)、F・H・C・クリック(英)、M・H・F・ウイルキンス(英) | 核酸の分子構造と遺伝子情報の伝達に関する研究 |
| 1963 | A・F・ハックスレー(英)、A・L・ホジキン(英)、J・C・エクルズ(オーストラリア) | 神経細胞膜の周辺におけるイオン機構の研究 |
| 1964 | K・ブロック(米)、F・リネン(独) | コレステロールおよび脂肪酸の研究 |
| 1965 | F・ジャコブ(仏)、A・ルウオフ(仏)、J・モノ(仏) | 酵素とウイルスの合成に関する遺伝的制御研究 |
| 1966 | E・P・ラウス(米) | ウイルスが引きおこす腫瘍の発見 |
| | C・B・ハギンス(米) | 前立腺ガンのホルモン療法に関する発見 |
| 1967 | R・A・グラニット(スウェーデン)、H・K・ハートライン(米)、G・ウォルト(米) | 視覚の基礎的な化学、生理学的活動の発見 |
| 1968 | R・ホリー(米)、G・コラーナ(米)、M・W・ニレンバーグ(米) | 遺伝子の暗号およびタンパク合成の機能解釈の業績 |
| 1969 | M・デルブリュック(米)、A・D・ハーシ(米)、S・E・ルリア(米) | ウイルスの複製機構と遺伝的構造における発見 |
| 1970 | B・カッツ(英)、U・V・オイラー(スウェーデン)、J・アクセルロッド(米) | 神経末梢部の化学物質伝達と貯蔵放出制御の研究 |
| 1971 | R・W・サザランド(米) | ホルモン作用の機構に関する研究 |
| 1972 | G・M・イーデルマン(米)、R・B・ポーター(英) | 抗体の化学構造に関する研究 |
| 1973 | C・F・フリッシュ(オーストリア)、C・ローレンツ(オーストリア)、N・テインバーゲン(オランダ) | 比較行動学を創始、人間や動物の社会的行動様式を発見考察した業績 |
| 1974 | A・クロード(ベルギー)、C・R・デデューブ(英)、G・E・パラーディ(米) | 細胞の構造と機能に関する発見 |
| 1975 | D・ボルチモア(米)、H・M・テミン(米)、R・ドルベッコ(英) | ガンウイルスと細胞の遺伝子との相互作用に関する発見 |
| 1976 | B・ブランバーグ(米) | HB抗原(B型肝炎ウイルス)の発見 |
| | C・ガイジュセク(米) | クール病の原因の究明 |
| 1977 | R・ギルミン(米)、A・シャリー(米)、R・ヤロー(米) | 脳が出すペプチドホルモンの研究 |
| 1978 | W・アーバー(スイス)、D・ネイサンズ(米)、H・O・スミス(米) | 制限酵素発見と分子遺伝学への応用 |
| 1979 | A・M・コーマック(米)、G・N・ハウンスフィールド(英) | レントゲン断層写真撮影装置(CT)の開発 |
| 1980 | J・ドーセ(仏)、B・ベナセラフ(米)、G・スネル(米) | 生体の免疫反応における遺伝学的研究 |
| 1981 | R・W・スペリー(米) | 大脳左右半球の機能分化を解明 |
| | D・H・ヒューベル(米)、T・N・ウィーゼル(米) | 脳の視覚情報処理機構を解明 |
| 1982 | S・K・ベルイストローム(スウェーデン) | プロスタグランデインの分離・化学構造決定 |
| | B・I・サミュエルソン(スウェーデン) | プロスタグランデインの作用機構解明 |
| | J・R・ベイン(英) | 血小板凝集を抑制するプロスタサイクリンの発見 |
| 1983 | B・マクリントック(米) | 動く遺伝子の発見 |
| 1984 | N・K・イエルネ(英)、G・J・F・ケーラー(独)、C・ミルスタイン(アルゼンチン) | 免疫機構の発達・調節の理論およびモノクローナル抗体産生方法の研究 |
| 1985 | M・S・ブラウン(米)、J・L・ゴールドスタイン(米) | コレステロール代謝の調節に関する研究 |
| 1986 | S・コーエン(米)、R・L・モンタルチーニ(伊) | 細胞成長因子の発見 |
| 1987 | 利根川進(日) | 抗体の遺伝的原理解明 |
| 1988 | J・W・ブラック(英) | 心臓病などの新治療薬開発 |
| | G・エリオン(米)、G・H・ヒッチングス(米) | 細胞の核酸合成を妨げる新薬の開発 |
| 1989 | J・M・ビショップ(米)、H・E・バーマス(米) | ガンウイルスにおけるガン遺伝子の細胞由来の発見 |
| 1990 | J・E・マレー(米)、E・D・トーマス(米) | 腎臓移植、骨髄移植で何万人もの命を救った業績 |
| 1991 | E・ネーアー(独)、B・ザクマン(独) | 細胞の単一イオンチャンネルの機能に関する発見 |
| 1992 | E・クレブス(米)、E・フィッシャー(米) | 生体制御メカニズムとしての可逆的タンパク質リン酸化の発見 |
| 1993 | P・A・シャープ(米)、R・J・ロバーツ(英) | 分断構造を持つ遺伝子の発見 |
| 1994 | A・ギルマン(米)、A・ロッドベル(米) | Gタンパク質とその細胞内信号変換に果たす役割の発見 |
| 1995 | E・ルイス(米)、C・ニュスラインフォルハルト(独)、E・ウィシャウス(独) | 初期胚発生における遺伝子制御の研究 |
| 1996 | P・C・ドハーティ(米)、R・M・ツィンカーナーゲル(スイス) | 細胞性免疫の特異性 |
| 1997 | S・プルジナー(米) | プリオンの発見 |

# ■ノーベル賞受賞者一覧（化学賞）

| | | |
|---|---|---|
| 1901 | J・H・ファント・ホフ（蘭） | 化学熱力学の法則、溶液の浸透圧の発見 |
| 1902 | H・E・フィッシャー（独） | 糖およびプリン誘導体の合成の研究 |
| 1903 | S・A・アレニウス（スウェーデン） | 電解質溶液理論研究 |
| 1904 | W・ラムゼー（英） | 空気中の希ガス類諸元素の発見と周期律におけるその位置の決定 |
| 1905 | J・F・W・A・フォン・バイヤー（独） | 有機染料とヒドロ芳香族化合物の研究 |
| 1906 | H・モアッサン（仏） | フッ素の研究と分離およびモアッサン電気炉の製作 |
| 1907 | E・ブフナー（独） | 化学・生物学的諸研究および無細胞的発酵の発見 |
| 1908 | E・ラザフォード（英） | 元素の崩壊および放射性物質の化学に関する研究 |
| 1909 | W・オストヴァルト（独） | 触媒作用に関する研究および化学平衡と反応速度に関する研究 |
| 1910 | O・ヴァラッハ（独） | 脂環化合物の分野における先駆的研究 |
| 1911 | M・キュリー（仏） | ラジウムおよびポロニウムの発見とラジウムの性質及びその化合物の研究 |
| 1912 | V・グリニヤール（仏） | グリニヤール試薬の発見 |
| | P・サバティエ（仏） | 微細な金属粒子を用いる有機化合物水素化法の開発 |
| 1913 | A・ヴェルナー（スイス） | 分子内原子の結合に関する研究 |
| 1914 | T・W・リチャーズ（米） | 多数の元素の原子量の精密測定 |
| 1915 | R・M・ヴィルシュテッター（独） | 植物色素物質とくにクロロフィルに関する研究 |
| 1916～1917 | 受賞者なし | |
| 1918 | F・ハーバー（独） | アンモニアの成分元素（窒素、水素）からの合成 |
| 1919 | 受賞者なし | |
| 1920 | W・H・ネルンスト（独） | 熱化学における研究 |
| 1921 | F・ソディ（英） | 放射性物質の化学に対する貢献と同位体の存在およびその性質に関する研究 |
| 1922 | F・W・アストン（英） | 非放射性元素における同位体の発見と整数法則の発見 |
| 1923 | F・プレーグル（オーストリア） | 有機物質の微量分析法の開発 |
| 1924 | 受賞者なし | |
| 1925 | R・A・ジグモンディ（独） | コロイド溶液の不均一性に関する研究および現代コロイド化学の確立 |
| 1926 | T・スヴェードベリ（スウェーデン） | 分散系に関する研究 |
| 1927 | H・O・ヴィーラント（独） | 胆汁酸とその類縁物質の構造に関する研究 |
| 1928 | A・O・R・ヴィンダウス（独） | ステリン類の構造とそのビタミン類との関連についての研究 |
| 1929 | A・ハーデン（英）、H・K・A・S・フォン オイラー-ケルピン（スウェーデン） | 糖類の発酵とこれに与る諸酵素の研究 |
| 1930 | H・フィッシャー（独） | ヘミンとクロロフィルの構造に関する諸研究とくにヘミンの合成 |
| 1931 | C・ボッシュ（独）、F・ベルギウス（独） | 高圧化学的方法の発明と開発 |
| 1932 | I・ラングミュア（米） | 界面化学における発見と研究 |
| 1933 | 受賞者なし | |
| 1934 | H・C・ユーリー（米） | 重水素の発見 |
| 1935 | F・ジョリオ・キュリー（仏）、I・ジョリオ・キュリー（仏） | 人工放射性元素の研究 |
| 1936 | P・J・W・デバイ（オランダ） | 双極子モーメントおよびX線、電子線回折による分子構造の決定 |
| 1937 | W・N・ハース（英） | 炭水化物とビタミンCの構造に関する諸研究 |
| | P・カラー（スイス） | カロテノイド類、フラビン類およびビタミンA、$B_2$の構造に関する研究 |
| 1938 | R・クーン（独） | カロテノイド類およびビタミン類についての研究 |
| 1939 | A・F・J・ブーテナント（独） | 性ホルモンに関する研究業績 |
| | L・ルジチカ（スイス） | ポリメチレン類および高級テルペン類の構造に関する研究 |
| 1940～1942 | 受賞者なし | |
| 1943 | G・ド・ヘヴェシー（ハンガリー） | 化学反応の研究におけるトレーサーとしての同位体の利用に関する研究 |
| 1944 | O・ハーン（独） | 原子核分裂の発見 |
| 1945 | A・I・ヴィルタネン（フィンランド） | 農業化学と栄養化学における研究と発見。とくに糧秣の保存法の発見 |
| 1946 | J・B・サムナー（米） | 酵素が結晶化されることの発見 |
| | J・H・ノースロップ（米）、W・M・スタンリー（米） | 酵素とウイルスタンパク質の純粋調製 |
| 1947 | R・ロビンソン（英） | 生物学的に重要な植物生成物とくにアルカロイドの研究 |
| 1948 | A・W・K・ティセリウス（スウェーデン） | 電気泳動と吸着分析についての研究。とくに血清タンパクの複合性に関する発見 |
| 1949 | W・F・ジオーク（米） | 化学熱力学への貢献。とくに極低温における物質の諸性質に関する研究 |
| 1950 | O・P・H・ディールス（独）、K・アルダー（独） | ジエン合成（ディールス-アルダー反応）の発見とその応用 |

| | | |
|---|---|---|
| 1951 | E・M・マクミラン(米)、G・T・シーボーグ(米) | 超ウラン元素の発見 |
| 1952 | A・J・P・マーティン(英)、R・L・M・シンジ(英) | 分配クロマトグラフィーの開発と物質の分離、分析への応用 |
| 1953 | H・シュタウディンガー(独) | 鎖状高分子化合物の研究 |
| 1954 | L・C・ポーリング(米) | 化学結合の本性ならびに複雑な分子の構造に関する研究 |
| 1955 | V・デュ・ヴィニョー(米) | 硫黄を含む生体物質の研究とくにオキシトン、バソシプレッシンの構造決定と全合成 |
| 1956 | C・N・ヒンシェルウッド(英)、N・N・セミョーノフ(ソ連) | 気相系の化学反応速度論。とくに連鎖反応に関する研究 |
| 1957 | A・R・トッド(英) | ヌクレオチドおよびその補酵素に関する研究 |
| 1958 | F・サンガー(英) | タンパク質とくにインシュリン構造に関する研究 |
| 1959 | J・ヘイロフスキー(チェコスロヴァキア) | ポーラログラフィーの理論およびポーラログラフの発明 |
| 1960 | W・F・リビイ(米) | 炭素14による年代測定法の研究 |
| 1961 | M・カルヴィン(米) | 植物における光合成の研究 |
| 1962 | M・F・ペルツ(英)、J・C・ケンドルー(英) | 球状タンパク質の構造に関する研究 |
| 1963 | K・ツィーグラー(独)、G・ナッタ(伊) | 新しい触媒を用いた重合法開発と基礎的研究 |
| 1964 | D・C・ホジキン(英) | X線回折法による生体物質の分子構造の研究 |
| 1965 | R・B・ウッドワード(米) | 有機合成法への貢献 |
| 1966 | R・S・マリケン(米) | 分子軌道法による化学結合および分子の電子構造に関する基礎的研究 |
| 1967 | M・アイゲン(独)、R・G・ノーリッシュ(英)、G・ポーター(英) | 短時間エネルギーパルスによる高速化学反応の研究 |
| 1968 | L・オンサーガー(米) | 不可逆過程の熱力学の基礎の確立とオンサーガーの相反定理の発見 |
| 1969 | D・H・R・バートン(英)、O・ハッセル(ノルウェー) | 分子の立体配座の概念の導入と解析 |
| 1970 | L・F・レロアール(アルゼンチン) | 糖ヌクレオチドの発見と炭水化物の生合成におけるその役割についての研究 |
| 1971 | G・ヘルツバーグ(カナダ) | 分子とくに遊離基の電子構造と幾何学的構造に関する研究 |
| 1972 | C・B・アンフィンゼン(米) | リボヌクレアーゼ分子のアミノ酸配列の決定 |
| | S・ムーア(米)、W・H・スタイン(米) | リボヌクレアーゼ分子の活性中心と化学構造に関する研究 |
| 1973 | E・O・フィッシャー(独)、G・ウィルキンソン(英) | サンドイッチ構造を持つ有機金属化合物に関する研究 |
| 1974 | P・J・フローリー(米) | 高分子物理化学の理論;実験両面にわたる基礎的研究 |
| 1975 | J・W・コーンフォース(オーストラリア・英) | 酵素による触媒反応の立体化学に関する研究 |
| | V・プレローグ(スイス) | 有機分子および有機反応の立体化学に関する研究 |
| 1976 | W・N・リプスコム(米) | ボランの構造に関する研究 |
| 1977 | I・プリゴジン(ベルギー) | 非平衡の熱力学、とくに散逸構造の研究 |
| 1978 | P・D・ミッチェル(英) | 生体膜におけるエネルギー変換の研究 |
| 1979 | H・C・ブラウン(米)、G・ヴィッティヒ(独) | 新しい有機合成法の開発 |
| 1980 | P・バーグ(英) | 遺伝子工学の基礎となる核酸の生化学的研究 |
| | W・ギルバート(米)、F・サンガー(英) | 核酸の塩基配列の解明 |
| 1981 | 福井謙一(日)、R・ホフマン(米) | フロンティア軌道論を用いた分子の電子構造に関する研究 |
| 1982 | A・クルーブ(英) | 結晶学的電子分光法の開発と核酸・タンパク質複合体の立体構造の解明 |
| 1983 | H・タウベ(米) | 無機化学における業績とくに金属錯体の電子遷移反応機構の解明 |
| 1984 | R・B・メリフィールド(米) | 固相反応によるペプチド合成法の開発 |
| 1985 | H・A・ハウプトマン(米)、J・カール(米) | 物質の結晶構造を直接決定する方法の確立 |
| 1986 | D・R・ハーシュバック(米)、リー・Y・T(米)、J・C・ポラーニ(カナダ) | 化学反応素過程の動力学的研究への寄与 |
| 1987 | C・J・ピーダーセン(米)、D・J・クラム(米)、J・M・レーン(仏) | 高い選択性で構造特異的な反応をおこす分子(クラウン化合物)の合成 |
| 1988 | J・ダイゼンホーファー(独)、R・フーバー(独)、H・ミヒェル(独) | 光り合成反応中の三次元構造の決定 |
| 1989 | S・アルトマン(米)、T・R・チェック(米) | リボ核酸(RNA)の触媒機能の発見 |
| 1990 | E・J・コーリー(米) | 複雑な有機化合物の合成理論と方法論の開発 |
| 1991 | R・R・エルンスト(スイス) | 核磁気共鳴(NMR)の解像度を飛躍的に上げる方法を開発し実用化に結び付けた功績 |
| 1992 | R・A・マーカス(米) | 分子間の電子移動を数学的に解析する手法を確立 |
| 1993 | K・B・マリス(米) | 遺伝子の断片を増やす遺伝子増幅技術法を開発 |
| | M・スミス(英) | 遺伝子DNAの量と質を操作する革新技術の開発 |
| 1994 | J・オラー(米) | 核磁気共鳴装置などを使い炭素陽イオンの性質の研究と新しい有機化合物の合成への貢献 |
| 1995 | P・クルッツェン(オランダ)、S・ローランド(米)、M・モリーナ(米) | 窒素酸化物やフロンがオゾン層を破壊する大気化学的解明 |
| 1996 | R・カール(米)、H・クロトー(英)、R・スモーリー(米) | 炭素原子60個がサッカーボールの模様と同じ形状に結合した分子C60(フラーレン)の構造を推定・合成した |
| 1997 | P・ボイヤー(米)、J・ウォーカー(英)、J・スコー(デンマーク) | 生物にエネルギーを与えるATPの合成と分解に関する酵素の解明 |

# ■医療費の推移

| | 医療費 | | | 国民総生産 | | | 国民所得 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | (億円) | 伸率 | 1人当り (千円) | (億円) | 伸率 | 割合 | (千円) | 伸率 | 割合 |
| 1969 | 20,780 | 15.3 | 20.3 | 648,907 | 18.4 | 3.20 | 521,178 | 19.2 | 3.99 |
| 1970 | 24,962 | 20.1 | 24.1 | 751,520 | 15.8 | 3.32 | 610,297 | 17.1 | 4.09 |
| 71 | 27,250 | 9.2 | 25.9 | 828,063 | 10.2 | 3.29 | 659,105 | 8.0 | 4.13 |
| 72 | 33,994 | 24.7 | 31.6 | 965,391 | 16.6 | 3.52 | 775,369 | 18.2 | 4.36 |
| 73 | 39,496 | 16.2 | 36.2 | 1,166,792 | 20.9 | 3.39 | 958,396 | 23.0 | 4.12 |
| 74 | 53,786 | 36.2 | 48.6 | 1,381,558 | 18.4 | 3.89 | 1,124,716 | 17.4 | 4.78 |
| 75 | 64,779 | 20.4 | 57.9 | 1,522,094 | 10.2 | 4.26 | 1,239,907 | 10.2 | 5.22 |
| 76 | 76,684 | 18.4 | 67.8 | 1,711,525 | 12.4 | 4.48 | 1,403,972 | 13.2 | 5.46 |
| 77 | 85,686 | 11.7 | 75.1 | 1,900,348 | 11.0 | 4.51 | 1,557,032 | 10.9 | 5.50 |
| 78 | 100,042 | 16.8 | 86.9 | 2,087,809 | 9.9 | 4.79 | 1,717,785 | 10.3 | 5.82 |
| 79 | 109,510 | 9.5 | 94.3 | 2,254,018 | 8.0 | 4.86 | 1,822,066 | 6.1 | 6.01 |
| 1980 | 119,805 | 9.4 | 102.3 | 2,453,600 | 8.9 | 4.88 | 1,995,902 | 9.5 | 6.00 |
| 81 | 128,709 | 7.4 | 109.2 | 2,603,343 | 6.1 | 4.94 | 2,097,489 | 5.1 | 6.14 |
| 82 | 138,659 | 7.7 | 116.8 | 2,734,615 | 5.0 | 5.07 | 2,193,918 | 4.6 | 6.32 |
| 83 | 145,438 | 4.9 | 121.7 | 2,859,973 | 4.6 | 5.09 | 2,308,057 | 5.2 | 6.30 |
| 84 | 150,932 | 3.8 | 125.5 | 3,057,253 | 6.9 | 4.94 | 2,436,089 | 5.5 | 6.20 |
| 85 | 160,159 | 6.1 | 132.3 | 3,255,011 | 6.5 | 4.92 | 2,602,784 | 6.5 | 6.15 |
| 86 | 170,690 | 6.6 | 140.3 | 3,406,959 | 4.7 | 5.01 | 2,711,297 | 4.2 | 6.30 |
| 87 | 180,759 | 5.9 | 147.8 | 3,577,964 | 5.0 | 5.05 | 2,838,955 | 4.7 | 6.37 |
| 88 | 187,554 | 3.8 | 152.8 | 3,819,982 | 6.8 | 4.91 | 3,013,800 | 5.2 | 6.22 |
| 89 | 197,290 | 5.2 | 160.1 | 4,099,693 | 7.3 | 4.81 | 3,221,436 | 6.9 | 6.12 |
| 1990 | 206,074 | 4.5 | 166.7 | 4,415,891 | 7.7 | 4.67 | 3,457,391 | 7.3 | 5.96 |
| 91 | 218,260 | 5.9 | 176.0 | 4,663,318 | 5.6 | 4.68 | 3,630,542 | 5.0 | 6.01 |
| 92 | 234,784 | 7.6 | 188.7 | 4,766,112 | 2.2 | 4.93 | 3,690,881 | 1.7 | 6.36 |
| 93 | 243,631 | 3.8 | 195.3 | 4,808,319 | 0.9 | 5.07 | 3,724,644 | 0.9 | 6.54 |
| 94 | 257,908 | 5.9 | 206.3 | 4,828,564 | 0.4 | 5.34 | 3,730,345 | 0.2 | 6.91 |
| 95 | 269,577 | 4.5 | 214.7 | 4,927,803 | 2.1 | 5.47 | 3,797,204 | 1.8 | 7.10 |
| 96 | 285,210 | 5.8 | 226.6 | 5,089,992 | 3.3 | 5.60 | 3,925,598 | 3.4 | 7.27 |
| 97(見込) | 291,000 | | | | | | | | |
| 98(推定) | 288,000 | | | | | | | | |

厚生省「国民医療費」
経済企画庁「国民経済計算年報」

# ■医薬品及び臨床検査薬生産状況

| | 医薬品生産額 | | | | | | 臨床検査薬*メーカー出荷額 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 総額（百万円） | 前年比(%) | 診断薬（百万円） | 前年比(%) | 体外診断薬（百万円） | 前年比(%) | （百万円） | 前年比(%) |
| 1969 | 842,514 | 22.3 | 4,531 | | | | | |
| 1970 | 1,025,319 | 21.7 | 5,955 | 31.4 | | | | |
| 71 | 1,060,424 | 3.4 | 6,667 | 11.9 | | | | |
| 72 | 1,091,791 | 3.0 | 7,095 | 6.4 | | | | |
| 73 | 1,367,138 | 25.2 | 7,809 | 10.1 | | | | |
| 74 | 1,699,688 | 24.3 | 10,218 | 30.8 | | | | |
| 75 | 1,792,406 | 5.5 | 12,204 | 19.4 | | | | |
| 76 | 2,162,436 | 20.6 | 17,687 | 44.9 | | | | |
| 77 | 2,458,294 | 13.7 | 20,619 | 16.6 | | | | |
| 78 | 2,793,878 | 13.7 | 24,530 | 19.0 | | | | |
| 79 | 3,042,302 | 8.9 | 28,059 | 14.4 | | | | |
| 1980 | 3,482,177 | 14.5 | 30,164 | 7.5 | | | | |
| 81 | 3,679,139 | 5.7 | 31,348 | 3.9 | | | | |
| 82 | 3,980,232 | 8.2 | 32,941 | 5.1 | | | | |
| 83 | 4,032,057 | 1.3 | 35,087 | 6.5 | | | 128,300 | |
| 84 | 4,026,985 | △0.1 | 60,932 | 73.7 | | | 137,300 | 7.0 |
| 85 | 4,001,807 | △0.6 | 65,019 | 6.7 | | | 144,500 | 5.2 |
| 86 | 4,280,732 | 7.0 | 72,236 | 11.1 | | | 153,700 | 6.4 |
| 87 | 4,825,398 | 12.7 | 110,548 | 53.0 | | | 164,400 | 7.0 |
| 88 | 5,059,459 | 4.9 | 145,160 | 31.3 | | | 176,300 | 7.2 |
| 89 | 5,502,271 | 8.8 | 166,617 | 14.8 | | | 189,500 | 7.5 |
| 1990 | 5,595,435 | 1.7 | 202,235 | 21.4 | | | 203,300 | 7.3 |
| 91 | 5,697,244 | 1.8 | 64,738 | | 146,201 | | 217,600 | 7.0 |
| 92 | 5,574,220 | △2.2 | 67,400 | 4.1 | 152,619 | 4.4 | 232,400 | 6.8 |
| 93 | 5,695,068 | 2.2 | 64,091 | △4.9 | 150,341 | △1.5 | 248,800 | 7.1 |
| 94 | 5,750,322 | 1.0 | 75,349 | 17.6 | 151,027 | 0.5 | 262,000 | 5.3 |
| 95 | 6,168,062 | 7.3 | 85,342 | 13.3 | 162,196 | 7.4 | 274,900 | 4.9 |
| 96 | 6,100,046 | △1.1 | 73,828 | △13.5 | 213,252 | 31.5 | 287,600 | 4.6 |
| 97 | 6,147,833 | 0.8 | 82,731 | 12.1 | 172,372 | △19.2 | 296,000 | 2.9 |
| 98（推定） | | | | | | | 285,000 | △3.7 |

厚生省「薬事工業生産動態統計年報」　＊資料提供：(株)富士経済

# ■業務会・業務委員一覧

| | 担当業務委員 |
|---|---|
| 第1回大会<br>1969(昭44) | テクニコン<br>ヤトロン |
| 第2回大会<br>1970(昭45) | テクニコン<br>中外製薬 |
| 第3回大会<br>1971(昭46) | テクニコン<br>日立製作所 |
| 第4回大会<br>1972(昭47) | 二光機材<br>セントラル科学貿易 |
| 第5回大会<br>1973(昭48) | 今井　省吾　(東芝メディカル)<br>卜部　　健　(安部商事)<br>長藤　昭正　(日立製作所)<br>物井　恵一　(第一化学薬品)<br>山田　　博　(関東化学) |
| 第6回大会<br>1974(昭49) | 今井　省吾　(東芝メディカル)<br>卜部　　健　(安部商事)<br>龍池　哲男　(島津製作所)<br>玉井　哲男　(島津製作所)<br>長藤　昭正　(日立製作所)<br>物井　恵一　(第一化学薬品)<br>山田　　博　(関東化学) |
| 第7回大会<br>1975(昭50) | 卜部　　健　(安部商事)<br>和田　春雄　(島津製作所)<br>杉村　泰男　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>松井　三郎　(藤沢メディカルサプライ)<br>水野　　昇　(片山化学工業)<br>長藤　昭正　(日立製作所)<br>泉谷千代明　(和光純薬工業) |
| 第8回大会<br>1976(昭51) | 佐野　洋二　(日科機)<br>新村　哲也　(オリンパス光学工業)<br>西山　英大　(三光純薬)<br>和気　栄一　(中外製薬) |
| 第9回大会<br>1977(昭52) | 上島　英雄　(蒼垣医理科工業)<br>佐野　洋二　(日科機)<br>新村　哲也　(オリンパス光学工業)<br>西山　英大　(三光純薬)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>吉野　　稔　(ベーリンガー・マンハイム・山之内)<br>和気　栄一　(中外製薬) |
| 第10回大会<br>1978(昭53) | 赤羽　信一　(日本電子)<br>川口　正介　(栄研化学)<br>内藤　　聡　(日本テクニコン)<br>松本　仁人　(中外製薬)<br>山田　光男　(長瀬産業) |
| 第11回大会<br>1979(昭54) | 泉谷千代明　(和光純薬工業)<br>岩谷　　勲　(和光純薬工業)<br>福島　育郎　(島津製作所)<br>今西　富夫　(島津製作所)<br>福田　悦磨　(国際試薬)<br>松井　三郎　(藤沢メディカルサプライ)<br>水野　　昇　(片山化学工業)<br>藪内　　弘　(安部商事) |
| 第12回大会<br>1980(昭55) | 川口　正介　(栄研化学)<br>福島　育郎　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>横山　和人　(東芝メディカル) |
| 第13回大会<br>1981(昭56) | 川口　正介　(栄研化学)<br>福島　育郎　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>横山　和人　(東芝メディカル) |

| | 担当業務委員 |
|---|---|
| 第14回大会<br>1982(昭57) | 川口　正介　(栄研化学)<br>稗圃　賢輔　(和光純薬工業)<br>福島　育郎　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>横山　和人　(東芝メディカル) |
| 第15回大会<br>1983(昭58) | 川口　正介　(栄研化学)<br>稗圃　賢輔　(和光純薬工業)<br>福島　育郎　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業) |
| 第16回大会<br>1984(昭59) | 川口　正介　(栄研化学)<br>河村　俊郎　(和光純薬工業)<br>中島　幸男　(東亜医用電子)<br>山川　　崇　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業) |
| 第17回大会<br>1985(昭60) | 田中　俊一　(和光純薬工業)<br>中島　幸男　(東亜医用電子)<br>本田　徹朗　(日水製薬)<br>山川　　崇　(島津製作所)<br>山田　　博　(関東化学)<br>山田　光男　(長瀬産業) |
| 第18回大会<br>1986(昭61) | 志賀　助貞　(和光純薬工業)<br>本田　徹朗　(日水製薬)<br>山川　　崇　(島津製作所)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>山本　義晴　(東亜医用電子)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |
| 第19回大会<br>1987(昭62) | 志賀　助貞　(和光純薬工業)<br>二木　紘一　(日水製薬)<br>山川　　崇　(島津製作所)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>山本　義晴　(東亜医用電子)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |
| 第20回大会<br>1988(昭63) | 志賀　助貞　(和光純薬工業)<br>二木　紘一　(日水製薬)<br>山川　　崇　(島津製作所)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>山本　義晴　(東亜医用電子)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |
| 第21回大会<br>1989(平成元) | 河村　俊郎　(和光純薬工業)<br>二木　紘一　(日水製薬)<br>山田　光男　(長瀬産業)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |
| 第22回大会<br>1990(平成2) | 河村　俊郎　(和光純薬工業)<br>末益美智雄　(オリンパス販売㈱)<br>二木　紘一　(日水製薬)<br>山田　純一　(日立製作所)<br>山田　光男　(医療新技術普及センター)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |
| 第23回大会<br>1991(平成3) | 河村　俊郎　(和光純薬工業)<br>末益美智雄　(オリンパス販売㈱)<br>二木　紘一　(日水製薬)<br>山田　純一　(日立製作所)<br>山田　光男　(医療新技術普及センター)<br>渡辺　　楷　(ダイアヤトロン) |

## ■日本臨床検査自動化振興会　役員名簿（第１期～第３期）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 理事長 | | 茂手木皓喜 | 日本臨床検査自動化学会会長 | （第1期～　　） |
| 理　事 | ○ | 山田光男 | 元・長瀬産業(株) | （第1期～　　） |
| | ○ | 渡辺　楷 | 元・(株)ダイアヤトロン | （第1期～　　） |
| | | 河村俊郎 | 和光純薬工業(株) | （第1期～第3期） |
| | ○ | 菅野正彦 | 和光純薬工業(株) | （第3期～　　） |
| | ○ | 石橋克昭 | 元・デュポン・ジャパン | （第2期～　　） |
| | | 山田純一 | (株)日立製作所 | （第1期） |
| | | 大保寺亘 | (株)日立製作所 | （第1期～第2期） |
| | ○ | 川上　彰 | (株)日立製作所 | （第2期～　　） |
| | | 辻本直明 | 栄研化学(株) | （第1期） |
| | | 神津忠良 | 栄研化学(株) | （第2期） |
| | ○ | 富田修二 | 栄研化学(株) | （第3期～　　） |
| | ○ | 末益美智雄 | オリンパス販売(株) | （第1期～　　） |
| | ○ | 二木紘一 | 日水製薬(株) | （第1期～　　） |
| | ○ | 和歌光雄 | 東亜医用電子(株) | （第1期～　　） |
| | ○ | 高原和子 | ベーリンガー・マンハイム(株) | （第2期～　　） |
| 監　事 | | 服部理男 | 元・埼玉県立がんセンター | （第1期～第2期） |
| | | 青木　弘 | 東芝メディカル(株) | （第1期～第2期） |
| | ○ | 原田　孝 | 東芝メディカル(株)<br>アボット東芝ダイアグノスティックス(株) | （第2期～　　） |
| 顧　問 | ○ | 末廣雅也 | | （第2期～　　） |

（第１期：第24, 25回大会
第２期：第26, 27, 28回大会
第３期：第29, 30, 31回大会
（○印は今期の役員）


# 臨床検査の自動化とともに

**――日本臨床検査自動化学会30周年記念――**

平成10年９月16日発行

発　行　日本臨床検査自動化振興会

発行人　茂手木　皓喜

〒113-0033
東京都文京区本郷3-19-6 ワイユウビル6F
TEL(03)5689-5910　FAX(03)5689-5917

# JSCLA / JACLA